Kyorin

健康はキョーリンの願いです。

アニュアルレポート 2014

2014年3月期

キョーリン製薬ホールディングス株式会社

連結財務ハイライト

キョーリン製薬ホールディングス株式会社およびその連結子会社
3月31日に終了した各事業年度および3月31日現在

百万円

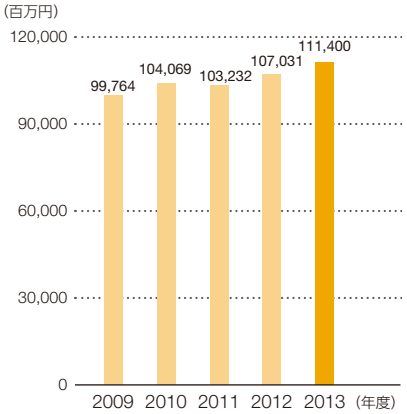
	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	**2013年度**
業績結果					
売上高	99,764	104,069	103,232	107,031	**111,400**
営業利益	13,261	16,443	14,464	17,948	**17,607**
売上高営業利益率(%)	13.3	15.8	14.0	16.8	**15.8**
当期純利益	8,848	10,927	9,231	12,422	**12,025**
売上高当期純利益率(%)	8.9	10.5	8.9	11.6	**10.8**
営業活動によるキャッシュ・フロー	12,027	6,805	8,913	11,544	**19,293**
投資活動によるキャッシュ・フロー	412	(1,806)	(4,926)	(7,187)	**(2,477)**
フリー・キャッシュ・フロー	12,439	4,999	3,987	4,357	**16,816**
研究開発費	11,807	12,495	13,964	11,059	**11,359**
売上高研究開発費比率(%)	11.8	12.0	13.5	10.3	**10.2**
設備投資額	1,291	1,668	1,952	6,576	**6,500**
減価償却費	2,810	2,458	2,363	2,738	**3,153**
ROE(自己資本当期純利益率)(%)	8.8	10.1	8.0	10.0	**9.0**
ROA(総資産当期純利益率)(%)	6.8	7.7	6.3	8.3	**7.4**
財政状態					
総資産	137,190	147,234	145,673	154,968	**169,378**
純資産	104,911	111,706	118,201	129,099	**137,821**
自己資本比率(%)	76.5	75.9	81.1	83.3	**81.4**

円

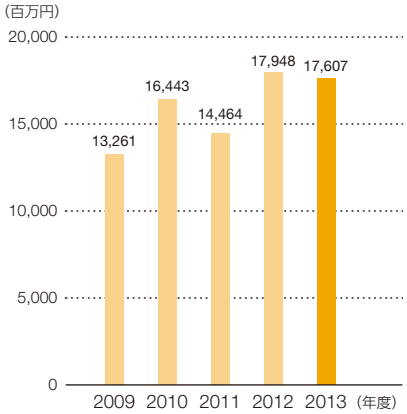
1株当たり情報					
1株当たり純資産	1,403.60	1,494.83	1,581.94	1,727.86	**1,844.61**
1株当たり当期純利益	118.37	146.21	123.54	166.25	**160.95**
1株当たり配当金	50.00	45.00	45.00	50.00	**52.00**
配当性向(%)	42.2	30.8	36.4	30.1	**32.3**
従業員数(人)	2,246	2,294	2,297	2,444	**2,452**

売上高	ヘルスケア事業の売上高が減少したものの、医薬品事業における新薬事業、後発医薬品事業の売上高は前年度を上回る実績で推移したことから増収となり、連結売上高は1,114億円(前年比4.1%増)と過去最高となりました。
営業利益	後発医薬品およびキョーリン製薬グループ工場(株)の売上ウェイトの上昇により原価率が1.1ポイント上昇しましたが、増収により売上総利益は前年比で15億円増加しました。他方、販売費及び一般管理費の増加(前年比3.7%増)などにより、営業利益は176億円(前年比1.9%減)となり減益となりました。
当期純利益	当期純利益は、120億円(前年比3.2%減)となりました。
ROE(自己資本当期純利益率)	9.0%(前年比1.0ポイント減)となりました。

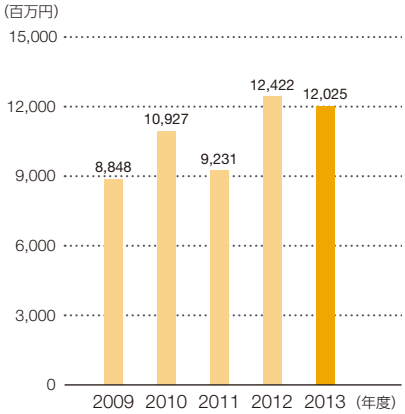
売上高



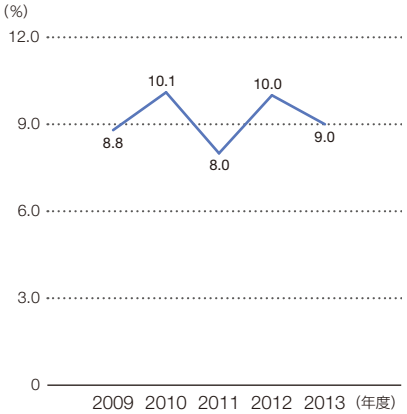
営業利益



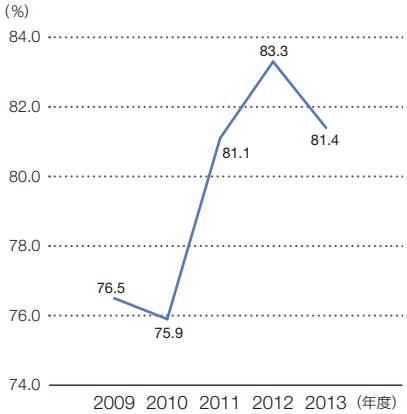
当期純利益



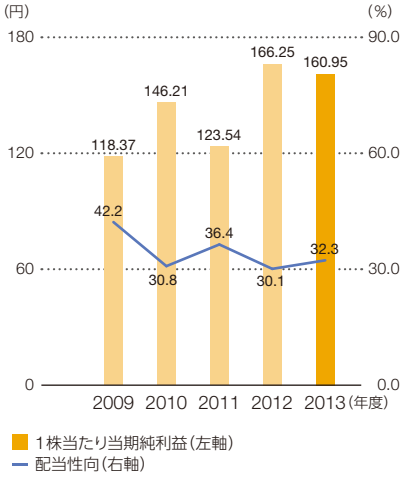
ROE(自己資本当期純利益率)



自己資本比率



1株当たり当期純利益および配当性向



目次

表紙裏.. 連結財務ハイライト

02 ..... 沿革

04 ..... ステークホルダーの皆様へ

10 ..... 特集:価値創造のための連携

18 ..... 特定領域でのプレゼンス

19 ..... アライアンス

20 ..... 主要製品

21 ..... 開発品の動向

22 ..... コーポレート・ガバナンス

25 ..... 役員紹介

26 ..... CSRの取り組み

28 ..... 財務情報

- 28 ..... 財務分析
- 32 ..... 連結貸借対照表
- 34 ..... 連結損益計算書/連結包括利益計算書
- 35 ..... 連結株主資本等変動計算書
- 36 ..... 連結キャッシュ・フロー計算書
- 37 ..... 個別貸借対照表/個別損益計算書(キョーリン製薬ホールディングス株式会社)

38 ..... 会社概要/株式情報

【キョーリン製薬グループについて】

キョーリン製薬グループは、中核子会社である杏林製薬(株)の創業以来、人々の健康に貢献するという製薬企業としての使命に真摯に取り組み、現在は研究開発から製造販売まで行う医薬品事業およびスキンケアを中心としたヘルスケア事業を展開しています。優れた新薬のいち早い創製、健康ニーズの拡がりに応じた事業の多核化を推進し、一層の企業価値の向上を目指しています。

コーポレートマークについて

Kyorin

杏の実をハート型にした3本の曲線が人々の笑顔を表しています。併せて、患者さん、ご家族、医療従事者の方々3者、また予防・治療・予後のキョーリンの目指す3つの核となるビジネスも表しています。
オレンジは、誠実な温かさ、バイオレットは、信頼を生み出す技術(力)、
ライトグリーンは、のびのびいきいきとした・創造性ゆたかなを表します。

【沿革】

1923

1923年
杏林製薬(株)の前身である
東洋新薬社を創立

1931年
杏林化学研究所を設立

1940年
名称を杏林製薬(株)に改称
販売部門を独立して杏林薬品(株)を設立

1946年
岡谷工場設置

1957年
医学機関誌「ドクターサロン」創刊

1961年
利尿・降圧剤「ベハイド」発売

1962年
杏林化学研究所
(後の開発技術センター)設置

1965年
鎮痛剤「キョーリンAP2」発売
経口血糖降下剤「デアメリンS」発売
神田駿河台に本社屋が完成

1967年
野木工場設置(現在は閉鎖)

1971年
脂質代謝・末梢血行改善剤
「コレキサミン」発売

1974年
代用血漿・体外循環希釈剤
「ヘスパンダー」発売

1976年
「ヒドロキシエチルスターチ」を
フリマー社(独、現バクスター社)へ導出

1977年
中央研究所(現創薬研究所)設置

1980年
「ノルフロキサシン」(NFLX)を
メルク社(米)へ導出

1981年
気道粘液調整・粘膜正常化剤「ムコダイン」
発売

1982年
「ノルフロキサシン」(NFLX)をアストラ社(スウェーデン、現アストラゼネカ社)、ブーツ社(英、現アボット社)へ導出

1983年
「ノルフロキサシン」(NFLX)をアメリカンホームプロダクツ社(米、現ファイザー社)へ
導出

1984年
広範囲経口抗菌剤「バクシダール」(NFLX)
発売

1986年
「フレロキサシン」(FLRX)をF.ホフマン・ラ・ロシュ社(スイス)へ導出
胃炎・胃潰瘍治療剤
「アプレース」発売

1989年
気管支喘息・脳血管障害改善剤「ケタス」
発売
広範囲抗菌点眼剤「バクシダール点眼液」
発売

1991年
広範囲経口抗菌剤「小児用バクシダール」
発売

1992年
杏林製薬(株)・杏林薬品(株)合併

1993年
持続型ニューキノロン剤「メガロシン」
(FLRX)発売

1995年
研究センター(現開発研究所)設置
(合成研究、開発技術、製剤技術および安全性技術の各センターを統合)
能代工場設置

1996年
日清製薬(株)に資本参加(社名を日清キョーリン製薬(株)に変更)
「ガチフロキサシン」(GFLX)をブリストル・マイヤーズスクイブ社(米)へ導出

1998年
「ミルトン」事業をP&Gより買収

1999年
東証2部上場

「杏林」の由来と商号について

杏林製薬の社名(商号)については、真の医療を表す「杏林」の二文字が起源となっています。「杏林」の名は、中国の古事に因んで生まれたもので、時代がどのように移り変わろうと、人々の健康を願うというキョーリン製薬グループの想いを表しています。

【杏林伝説】

古代中国。貧しい患者からは治療費の代わりに杏の苗を受け取ったという伝説の名医、董奉(とうほう)。日ごとに増える杏の木は、やがて大きな林となり、生命を慈しむ董奉の心も人々の間に広がっていきました。(神仙伝より)

それから董奉の徳を称え、「杏」または「杏林」の字句が一般に医、あるいは医療などを表す言葉として中国から日本に伝わりました。

2000 → 2014

2000年
東証1部指定
「ガチフロキサシン点眼液」をアラガン社(米)へ導出

2001年
気管支喘息治療剤「キプレス錠」発売
米国にKyorin USA, Inc.(100%出資)を設立

2002年
ドイツにKyorin Europe GmbH(100%出資)を設立
広範囲経口抗菌剤「ガチフロ」(GFLX)発売

2004年
米国のActivX Biosciences, Inc.を100%子会社化

2005年
東洋ファルマー(株)
(現キョーリン リメディオ(株))の株式を取得(子会社化)
ドクタープログラム(株)を100%子会社化

2006年
(株)キョーリンとの株式交換により、持株会社体制へ移行
能代工場新製剤棟を新設

2007年
代用血漿・体外循環希釈剤
「ヘスパンダー」「サリンヘス」に係わるビジネスを
フレゼニウスカービ社(独)へ譲渡
過活動膀胱治療剤「ウリトス錠0.1mg」発売
気管支喘息治療剤「キプレス細粒4mg」発売

2008年
気管支喘息・アレルギー性鼻炎治療剤
「キプレス錠5mg」発売
杏林製薬(株)と
日清キョーリン製薬(株)が合併
潰瘍性大腸炎・クローン病治療剤
「ペンタサ錠500」発売

2009年
「ガチフロキサシン点眼液」の中国での独占的販売権を付与する契約を
千寿製薬(株)と締結
メルツ社と耳鳴治療薬「ネラメキサン」の国内ライセンス契約締結

2010年
商号を(株)キョーリンから
キョーリン製薬ホールディングス(株)へ変更
気道粘液調整・粘膜正常化剤
「ムコダインDS50%」発売

2011年
アルミラール社と慢性閉塞性肺疾患治療薬「アクリジニウム」についてライセンス契約を締結
過活動膀胱治療剤「ウリトス錠0.1mg」の口腔内崩壊錠を発売

2012年
環境除菌・洗浄剤「ルビスタ」発売
MSD滋賀工場を取得し、キョーリン製薬グループ工場(株)を創業

医療用外用抗真菌剤
「ペキロンクリーム0.5%」に
係わるビジネスを
ガルデルマS.A.(スイス)へ譲渡

2013年
神田駿河台「御茶ノ水ソラシティ」に本社移転
潰瘍性大腸炎治療剤「ペンタサ坐剤1g」発売
喘息治療配合剤「フルティフォーム」発売

ステークホルダーの皆様へ

キョーリン製薬グループは、「キョーリンは生命を慈しむ心を貫き、人々の健康に貢献する社会的使命を遂行します。」という企業理念の下、医薬品をはじめ、真に人々の健康に貢献できる事業を多核的に展開し、グループとしての存在意義および企業価値を高めていきたいと考えています。

変化の激しい不確実かつ不連続な経済・社会情勢の中、強固なヘルスケア事業ポートフォリオの構築に努め、持続的な成長を目指します。

健康はキョーリンの願いです。

2014年7月
代表取締役社長　山下　正弘

キョーリン製薬グループの企業理念

キョーリンは生命を慈しむ心を貫き、人々の健康に貢献する社会的使命を遂行します。

長期ビジョン「HOPE100(2010～2023年度)」

【ステートメント】

キョーリン製薬グループは、ヘルスケア事業を多核的に展開・発展させ、2023年には社内外が認める健全な健康生活応援企業へと進化します。

キョーリン製薬グループは、長期ビジョン「HOPE100」の実現に取り組んでいます。

長期ビジョン「HOPE100」は、当社グループの事業目的や存在意義を記した企業理念の具現化構想であり、病気の治療・予防、健康の維持・増進に関連する事業を通じて人々の健康に貢献することおよび企業グループの健全な発展を願って、「Aim for Health Of People and our Enterprises」の頭文字と中核子会社である杏林製薬(株)が2023年に迎える創業100周年から命名しました。当社グループは企業理念の下、長期ビジョン「HOPE100」の実現に向け、日々、邁進していきます。

長期ビジョン「HOPE100」を3つのステージに分割し、ファーストステップに位置づける中期経営計画「HOPE100 −ステージ1−(2010～2015年度)」の達成を目指します。

長期ビジョン実現に向けたファーストステップと位置づける中期経営計画「HOPE100−ステージ1−」では、企業の持続成長のためにはサイクルの異なる事業を組み合わせ、バランスのとれた強固な事業ポートフォリオを持つことが大切と考え、事業戦略として医薬品事業とヘルスケア事業で構成する「マルチ・コア戦略」(下図)を推進しています。医薬品事業では、新薬群、先発品群、後発品群を複合的に展開するPharma Complex Model(PCモデル)(下図)の考え方を実践し、ヘルスケア事業では既存事業の育成と新規事業の創出により医薬品事業のリスク補完とグループの成長促進の体制を整えます。

また当社グループは長期ビジョンにおいて「事業は人にあり」という考えを大切にし、社員が熱意を持って仕事に取り組むことのできる「働きがいNo.1企業」の実現を目指しています。人と組織を活力化することが事業戦略を遂行し、成果を具現化するための最重要課題と認識して、人材マネジメント(採用・育成・評価・昇進・配置・報酬・福利厚生等)の再構築を図ります。

中期経営計画「HOPE100 −ステージ1−」も最終年度まで残すところ2年となりました。出口目標(売上高1,400億円、営業利益200億円)の達成に向け、実行プログラム2014の着実な進捗にグループ全社員が一丸となって取り組んでまいります。ステークホルダーの皆様方には、当社グループに対するさらなるご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

マルチ・コア(MC)戦略

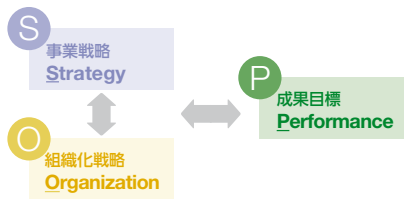
—医薬品事業を中核とするヘルスケア事業の多核化—

医薬品事業	ヘルスケア事業
ファーマ・コンプレックス・モデル(PCモデル)* ↓ 複合的な事業展開(新薬群、先発品群、後発品群)	既存事業の育成と新規事業の拡充と育成

* 医薬品事業を新薬群、先発品群および後発品群に区分し、複合的に展開することで事業環境の変化に的確に対応し、医薬品事業全体を強化しています。

「HOPE100 −ステージ1−」の構成

中期経営計画「HOPE100−ステージ1−」は、事業戦略(Strategy)、組織化戦略(Organization)、成果目標(Performance)の3つの要素によって構成されています。それぞれの視点で着実に取り組み、さらなる企業価値の向上を目指していきます。



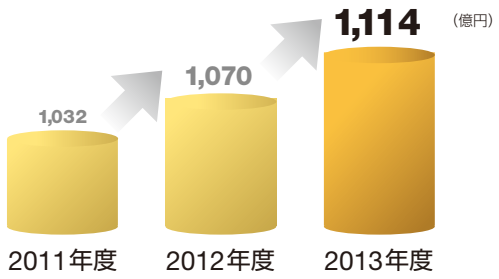
2013年度のハイライト

中期経営計画「HOPE100－ステージ1－（2010～2015年度）」

2010年度 初年度	2011年度 2年目	2012年度 3年目	**2013年度 4年目**	2014年度 5年目	2015年度 最終年度

グループ最高売上高の達成

- 2期連続で最高売上高を更新



新製品2品目の発売

喘息治療配合剤
「フルティフォーム」
炎症を強力に抑えるICSと気管支を速やかに広げるLABAの配合剤

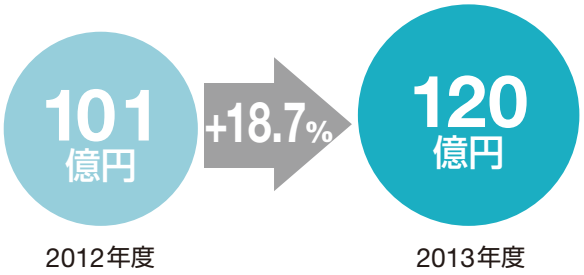
・2013年9月承認取得 ・2013年11月発売

潰瘍性大腸炎治療剤
「ペンタサ坐剤1g」
・コンビネーションセラピー（経口剤、局所製剤）の推進
・直腸部位に効果

・2013年3月承認取得 ・2013年6月発売

後発医薬品事業の売上は2桁成長

- 重点品および2013年度追補品による売上拡大
- 主導的共同開発の推進および受託生産の増加



研究開発パイプラインの着実な進捗

- 自社創薬の推進
- 導入品の開発促進
- ライフサイクルマネジメントの取り組み（剤型追加等）

呼吸器	≫	**KRP-AB1102** 承認申請（2014年3月） **KRP-AB1102F** PhⅢ開始（2013年8月）
泌尿器	≫	**KRP-EPA605** PhⅠ開始（2013年10月）
感染症	≫	**KRP-AM1977X** PhⅡ開始（2013年9月）

社長インタビュー

Q1

2013年度の総括をお聞かせください。

Answer: 01

売上高は前年比で44億円増加し、過去最高を更新しました。新製品2品目(喘息治療配合剤「フルティフォーム」、潰瘍性大腸炎治療剤「ペンタサ坐剤1g」)の発売による新医薬品事業の売上拡大が1つの要因です。後発医薬品事業も予想を上回る実績で推移し、次なるステップに向け、2013年度は実りの大きな年度となりました。

【決算概要】

2013年度の医薬品事業を取り巻く環境は、薬剤費の抑制を目的とした諸施策が実施される中、市場成長は低調に推移し、厳しい状況が継続しました。

このような環境ではありますが、医薬品事業における新薬事業では新製品上市による売上増に加えて、主力製品である気管支喘息・アレルギー性鼻炎治療剤「キプレス」、過活動膀胱治療剤「ウリトス」等の売上が前年度を上回り、また2012年10月に事業を開始したキョーリン製薬グループ工場(株)の売上高が年間寄与したことから、売上高は前年比3.1%増となりました。後発医薬品事業でも2013年度の追補品を含む重点品の売上増加、他社受託ビジネスの拡大により、売上高は前年比18.7%増と実績を順調に伸ばすことができました。

ヘルスケア事業では、売上高は前年比5.7%減となりましたが、新たな収益の柱として位置づける環境衛生事業において環境除菌・洗浄剤「ルビスタ」の普及拡大への道程が見えてきました。

以上のように取り組んだ結果、連結売上高は1,114億00百万円(前年比4.1%増)となり、昨年度に続き増収を達成することができました。しかしながら、利益面では、原価率上昇による原価額の増加、新薬発売に伴う販促費等の増加により、営業利益は176億07百万円(前年比1.9%減)と減益となり、課題を残す結果となりました。

【2013年度実績】

(億円)

	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	**2013年度**	対前年比(%)
売上高	998	1,041	1,032	1,070	**1,114**	4.1
医薬品事業	910	969	967	1,008	**1,055**	4.7
ヘルスケア事業*	87	72	66	62	**59**	(5.7)
営業利益	133	164	145	179	**176**	(1.9)
当期純利益	88	109	92	124	**120**	(3.2)

* スキンケアおよび一般用医薬品他

【事業戦略の進捗状況について】

当社グループは、医薬品事業のリスク補完と成長促進を可能とする強固なポートフォリオの構築が持続成長には大切であると考えています。その達成のために「マルチ・コア(MC)戦略」を立案し、医薬品事業の強化はもちろんのこと、ヘルスケア事業において既存事業の育成・新規事業の拡充に取り組んでいます。

医薬品事業では新薬群、先発品群および後発品群を複合的に展開するPCモデルの考え方を実践しました。新薬群については、特定領域における魅力ある製品パイプラインの充実と世界に導出できる新薬の創製を目指し、自社創薬、導入品の開発、既存品のライフサイクルマネジメント(新効能・効果取得、剤型追加)に取り組みました。2013年度の研究開発状況は、前述の新薬上市に続き、慢性閉塞性肺疾患(COPD)治療剤「KRP-AB1102」の承認申請(P6参照)など、開発パイプラインは順調に進展し、さらに、「HOPE100 −ステージ3−」の目標に掲げる「世界に通用するオリジ

ナル新薬の創製」に向け、自社創製において、企業の総合力を最大限に発揮できる体制の構築を目的とした新研究開発施設を建設することを決定し、2014年1月に着工いたしました。

営業部門では、特定領域（呼吸器科、耳鼻科、泌尿器科）でのプレゼンス確立に向け、同領域での次期主力製品として期待する喘息治療配合剤「フルティフォーム」を新発売し、今後の成長への足掛かりを作ることができました。

後発品群では自社グループ内での連携強化だけでなく、主導的共同開発を推進し、その後他社からの受託生産に結びつけるというビジネスモデルを徐々に実績として積み上げ、後発医薬品事業の売上増加に貢献する体制にまで育成できたと考えています。

新薬群から後発品群に関わる生産部門では、高品質の製品を安定的に低コストで供給する生産体制の確立を重要課題として掲げていますが、前年度に事業を開始したキョーリン製薬グループ工場（株）の生産も順調に進捗し、グループ新生産体制の構築に向け歩みを進めることができました。

ヘルスケア事業では、環境衛生事業における環境除菌・洗浄剤「ルビスタ」の普及拡大に向け、当社グループの子会社でありますキョーリン メディカルサプライ（株）と杏林製薬（株）の協働体制を強化しました。両社共同で採用軒数を確保し、飛躍的に成長を加速させるという課題に今後は取り組んでまいります。

Q2

中期経営計画「HOPE100 −ステージ1−」の5年目にあたる2014年度の取り組みについてお聞かせください。

Answer: 02

薬価制度改革等、厳しさを増す事業環境の中で事業リスクの分散を図りつつ、環境変化に対応していきます。長期ビジョン「HOPE100」の実現に向け、今何をすべきか、時間軸を大切にして重要課題に組織全体で取り組み、当社グループの持続成長を目指します。

医薬品事業においては引き続きPCモデルの考え方を実践していきます。新薬群について申し上げますと、研究開発活動では研究開発パイプラインを充実させ、「HOPE100−ステージ3−（2020〜2023年度）」で世界に導出できるオリジナル新薬の創製が喫緊の課題と捉えています。新薬開発には時間とコストがかかるため、他企業とのコラボレーションだけではなく、アカデミア、研究機関、ベンチャー企業等とのオープンイノベーションを推進し、短期・中期・長期的視点で創薬テーマの充実、次世代創薬に向けた取り組みを強力に進めてまいります。営業部門では、当社が推進するフランチャイズ・カスタマー（FC）戦略により培った医師や医療従事者との信頼関係を今以上に強化していきます。既存の主力製品の普及最大化はもちろんのこと、新製品である潰瘍性大腸炎治療剤「ペンタサ坐剤1g」や喘息治療配合剤「フルティフォーム」の早期市場浸透に最大限、注力いたします。特に、「フルティフォーム」につきましては、処方制限解除（予定：2014年12月）を控え、医療従事者の方々への製品特性の理解促進に努めており、これを機に飛躍的な処方拡大に結びつけたいと考えています。

後発品群では、重点品の売上増加および主導的共同開発・受託生産のビジネスモデルを推進し、売上拡大に努めるだけでなく、原価率・販管費率を改善し利益を追求してまいります。

生産部門では、薬価制度改革の影響を大きく受けている長期収載品の収益をいかに確保していくか等、環境変化への対応が重要な課題です。強固な収益力構築のために、費用対効果を考えた生産の在り方やサプライチェーン・マネジメント構想を早急に検討し、ローコストオペレーションの追求、製品の安定供給に取り組みます。

ヘルスケア事業では、環境衛生事業が当社グループの新たな核となり飛躍的に成長を加速させることができるよう注力します。またスキンケア事業におきましては、事業の再構築を行い、早期に再成長への道筋をつけたいと考えています。

Q3

株主還元方針についての考えをお聞かせください。

Answer: 03

「成長のための投資」「事業継続のための投資」「株主還元」をバランスよく実施します。

「HOPE 100 −ステージ1−」では、業績における定量目標に加え、ステークホルダーの皆様への貢献を掲げています。「成長のための投資」としましては、医薬品事業における研究開発パイプラインの充実に向けた導入品獲得等を推進し、ヘルスケア事業では、将来を見据え、戦略的かつ積極的な投資を行うことを考えています。

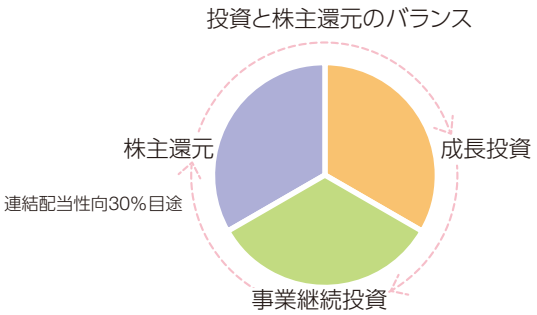
「株主還元」では、連結配当性向30%を目途に配当を実施します。2013年度の配当金につきましては、連結配当性向32.3%、年間配当金を1株当たり52円としました。2014年度は、1株当たり年間配当金52円(中間期20円)、連結配当性向34.4%を予定しています。

当社グループは「成長のための投資」「事業継続のための投資」「株主還元」をバランスよく実施し、経営基盤を強化することで企業価値の向上を図り、ステークホルダーの皆様への責任を果たしてまいります。

【成果目標】

2015年度(目標)	(億円)
連結売上高	1,400
医薬品事業	1,200
ヘルスケア事業*	200
連結営業利益	200

* スキンケアおよび一般用医薬品他



Q4

ステークホルダーの皆様に向けてメッセージをお願いします。

Answer: 04

中期経営計画「HOPE100−ステージ1−」の最終年度まで残すところ2年となりました。2014年度は、ステージ1の出口目標の達成に向け社員一丸となって実行プログラム2014に取り組み、成果を積み上げてまいります。そして、次のステージに、これまでのトレンドの延長線上ではなく新しい考え方で、存在感・成長性があり、働きがいのある企業へと進化させていきたいと考えています。

当社グループでは、今後も積極的な情報開示に努め、長期ビジョン「HOPE100」の進捗状況についてステークホルダーの皆様にお伝えしてまいります。

皆様方には、当社グループにご期待いただくとともに、変わらぬご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

特集：価値創造のための連携

—グループ内の連携強化により事業の多核化を目指す—

キョーリン製薬グループは、医薬品事業を展開する杏林製薬（株）を中核とし、新医薬品および後発医薬品の開発、生産、販売を行っています。また、事業の多核化を目指し、グループ間で連携してヘルスケア事業を推進しています。

キョーリン製薬

医薬品事業
（新医薬品、後発医薬品）

キョーリン リメディオ株式会社

■後発医薬品、一般用医薬品他

グループの後発（ジェネリック）医薬品事業を担う子会社であり、「信頼されるジェネリック医薬品企業」を目指しています。
患者さんの健康への貢献そして医療費抑制、社会保障制度の維持という社会的に重要な役割を認識し、品質保証・安定供給・情報提供を徹底し、特色のある後発医薬品の提供に取り組んでいます。

http://www.kyorin-rmd.co.jp/

杏林製薬株式会社

■新医薬品、後発医薬品、一般用医薬品他

「患者さんや医療に携わる方々から信頼され、社会に存在意義を認められる医薬品メーカー」を目指す企業像として掲げ、特定領域（呼吸器科、耳鼻科、泌尿器科）におけるプレゼンスの向上とグローバルな自社新薬の創製に取り組んでいます。

http://www.kyorin-pharm.co.jp/

キョーリン製薬グループ工場株式会社

■医療用医薬品（製造）

医薬品製造会社として2012年10月より事業を開始しました。MSD（株）より取得した医薬品生産に関する資産をもとに、医療用医薬品の製造に関する事業を行っています。今後は、環境変化に対して、様々な施策を柔軟かつ迅速に実行できる体制を構築し、高品質な製品の安定的提供、製造技術の向上とコスト効率化を目指します。

http://www.kyorin-fc.co.jp/

グループ

ヘルスケア事業
（スキンケア、一般用医薬品他）

キョーリン メディカルサプライ株式会社

■販売促進・広告物の企画制作等、環境衛生

医薬品に関連する広告の企画制作等を中心に、多岐にわたるコミュニケーションビジネスを手掛けるとともに、将来、キョーリン製薬グループの核となる事業の一つとして育成を図る環境衛生事業に積極的に取り組み、健康生活応援企業を目指すグループの一員として社会に貢献していきます。

http://www.kyorin-ms.co.jp/

杏林製薬（株）内での連携

研究・開発
グローバルな自社新薬の創製と導入品開発、育薬研究により魅力的かつ高品質な製品の提供を目指しています。

営業
特定領域に活動を重点化するFC（フランチャイズ・カスタマー）戦略を推進することで、効率的・効果的な営業活動を展開しています。

生産
高品質の製品を安定的に、低コストでつくるために、製造プロセスにおける品質保証体制を確立し、製品を提供しています。

ドクタープログラム株式会社

■スキンケア

新規美容成分の研究や成分浸透技術の開発で培ってきた、製薬発想のナノカプセル技術を製品づくりの基盤としています。

今後もお客様の声に真摯に耳を傾け、これまで市場に存在しなかった新しい製品を創造し、女性の美と健康に貢献していきます。

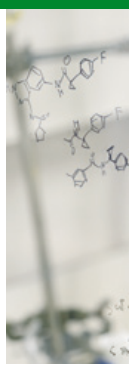
http://www.drprogram.co.jp/

特集：価値創造のための連携

研究・開発

小室 正勝
杏林製薬（株）
常務取締役　研究開発本部長
キョーリン製薬ホールディングス（株）
取締役

革新的なオリジナル新薬の継続的な創製とパイプライン充実・強化を目指し、創薬ポートフォリオの拡充、製品像を踏まえた臨床開発の実践、さらには研究開発プロセスの変革によるスピードアップに取り組みます。その担い手である研究者のチームワークを最大限に発揮して、質の高い「薬創り」に挑戦します。



時間軸を大切に、「創薬」「開発」「育薬」を推進し、開発パイプラインの充実を図る

当社グループは、長期ビジョン「HOPE100」の実現に向け、時間軸を大切にした研究開発の推進を基本姿勢として、各ステージにおける成果目標を設置し、その達成に取り組んでいます。

ステージ1において製品価値を最大化する「育薬」、ステージ1・2での上市を目指す「開発」、そしてステージ3およびそれ以降に世界で通用する画期的新薬を創製するための「創薬」と、研究開発プロセスにおける役割と目標を設け、今（今年度）注力すべき課題に取り組んでいます。これらの取り組みによって、当社の重点領域（呼吸器科、耳鼻科、泌尿器科）の開発パイプラインを強化し、製品ラインナップの充実に繋げていきます。

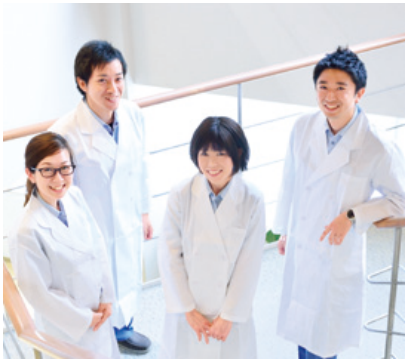
「創薬」においては、コアテクノロジーとして炎症、免疫、感染症などの基礎研究領域に創薬の探索技術を有し、効率的な化合物の合成展開に役立てているほか、ステージ3における革新的なオリジナル新薬（今までの治療体系を変え得る薬）の創製をキーコンセプトとして低分子創薬に注力しています。

「開発」においては、開発期間の短縮と質の向上を目指しています。開発候補化合物特定から臨床試験までの期間短縮を目指した質の高い「開発研究」に挑戦し、「開発プロデュース」（上市後の製品像を強く意識した開発方針の策定）に基づき、対象となる患者さんを常に想定し、そのニーズにきめ細かく応える製品づくりに取り組んでいます。

「育薬」においては、質の高い育薬研究を実施することによりエビデンスを構築し、製品価値の最大化を図っています。

スモール・スケール・メリットを強みとして活かす

杏林製薬（株）は、「探索研究」「開発研究」「臨床開発」に幅広く対応できる人材の育成を図るとともに、部署間の連携を強化し、チームとしての成果を重視することで研究開発のスピードアップと質の向上を実現しています。多様な研究技術を有する個々人と部門連携（チームワーク）の良さを活かすスモール・スケー



ル・メリットを強みとして、これからもモノづくりに高いレベルで挑戦します。創薬・開発研究においては最先端の知識と技術を持ち続けることが重要であることから、研究開発本部では、社員が自らを磨き高める努力をバックアップする人材マネジメントの方針を策定し実践しています。継続教育にも取り組み、多角的な知見をベースとした研究活動を実現していきます。

オープン・イノベーションで可能性を拡げる

さらに自社内に留まらず、アカデミア(大学、研究機関、ベンチャーなど)との協業を通して事業を進めるオープン・イノベーションにも力を注ぐことにより、研究開発プロセスを変革し、新しい創薬体制の構築を目指します。具体的な取り組みとしては、岡山大学および大学発のベンチャーである桃太郎源(株)と連携し、次世代治療技術と位置づける遺伝子治療医薬品の開発に取り組みます。一日も早く、新しい治療薬を患者さんに提供できるよう実用化に向けて注力してまいります。

現場の声

私たちは、発売後に製品を服用していただく患者さんを常に念頭におき、研究開発活動に取り組んでいます。テーマ設定においては市場性、事業性、実現性を充分に検討し、ドラッグデザインにおいては「有効性」「安全性」「利便性」を追求しています。誰もが積極的にテーマ設定などのアクションを起こせるオープンな環境の下、各々の専門性を高めることはもちろん、組織を越えたディスカッションをすることで医療関係者や患者さんを理解し、世界に通用する画期的新薬の創製を目指しています。

グループにおける連携

■ActivX(海外子会社)との連携による創薬体制

探索研究において、杏林製薬(株)の子会社であるActivX Biosciences社(San Diego, CA, USA)との連携により、その独自の創薬プラットフォーム(基盤技術)を利用して革新的な創薬に取り組んでいます。

■後発医薬品の開発

杏林製薬(株)とキョーリン リメディオ(株)が協働で研究開発を行うことで、高品質な後発医薬品の開発が可能となっています。

■スキンケア製品の開発

杏林製薬(株)とドクタープログラム(株)が連携を図り、スキンケア研究グループとして製品開発を行っています。

■オリジナル新薬の創製に向け環境を整備

杏林製薬(株)は、新研究開発施設を建設(2015年8月竣工予定)し、国内の研究開発機能を1ヵ所に集約することによって、人・組織・システムにおける効率化と連携強化を図り、企業の総合力を最大限発揮できる体制の構築を目指しています。研究員の集中力の発揮、コミュニケーションの活性化、独創的な発想力の向上を実現できる環境の整備を図り、革新的なオリジナル新薬の創製と提供に取り組みます。

特集：価値創造のための連携

生産

丸林 和弘
杏林製薬（株）
取締役　生産本部長

生産部門の使命であり、目標でもある「品質確保」「安定供給」「コスト低減」を3本柱に、国内最高水準の生産体制を追求しています。EHS活動にも積極的に取り組み、環境に配慮した工場としても国内トップレベルを目指し、日本国内はもとより世界からも信頼される生産部門の構築にグループ会社全体で連携し邁進しています。

また、生産部門では「組織は人なり」という考えの下、一人ひとりの力を最大限に発揮し結束力のある強い生産組織を目指しています。

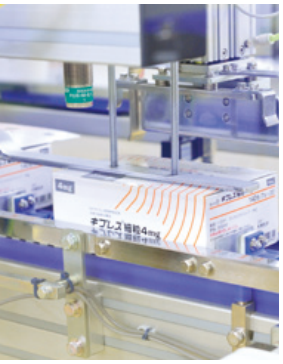
「高品質」の製品を「安定的」に「低コスト」で提供するという恒久的な使命に挑む

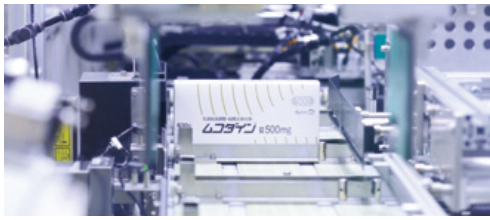
当社グループは、「品質確保」「安定供給」「コスト削減」を基本的な考え方として、生産活動を確実に実行しています。その上で、グループの持続的成長と収益の確保を目指して、長期ビジョン「HOPE100」、中期経営計画「HOPE100 －ステージ1－」における重要課題として、「高品質の製品を安定的に低コストで供給する生産体制の構築」を掲げ、以下の4つの課題に戦略的に取り組んでいます。

まず、「グループ生産体制の全体最適化」としては、事業計画に応じてグループ内の各工場で安定供給体制を確保し、効率的な生産活動を図っています。次に、「グローバルな新生産体制の展開」では、将来を見据えたグローバル基準に対応し、生産体制の強化を図ります。2012年10月から、グループにキョーリン製薬グループ工場（株）が加わり、従来にも増して、高品質な製品の安定的提供、製造技術の向上とコストの低減、グローバルな展開を目指しています。また、「ローコストオペレーション」においては、視覚化によるコスト低減と品質向上を同時に実現することを目指していきます。今年度から生産部門に新設したSCM（サプライチェーンマネジメント）部が中心となって、以上の課題に取り組んでいます。「人材育成」については、患者さんや医療関係者の方々に高品質な製品を安定して届けるために社員一人ひとりが常に向上心を持ち、高い創造力を発揮する組織づくりを推進しています。これらの取り組みを通して、ハード・ソフト両面から生産体制の強化を進め、キョーリン製薬グループの価値向上を図っています。

サプライチェーンマネジメントの戦略的推進

原料調達から生産管理、製造、出荷までを製品ごとに管理し、スピードと確実性の向上を目指すサプライチェーンマネジメントを推進しています。調達先のリスク回避や安定的な供給を受けるため、国内外のサプライヤーと強固な信頼関係を構築するとともに、第二、第三の調達先および輸送経路等の確保を目指しています。また、環境変化に負けない強固な収益力を構築するために、効率

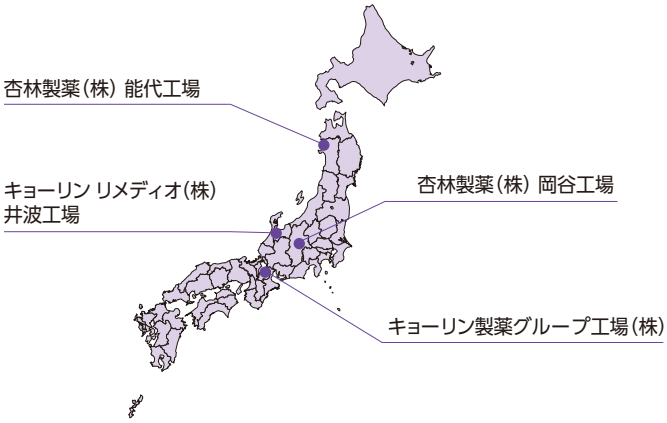




的な生産体制を追求し、製造原価を低減する生産のあり方を検討しています。

今後はキョーリン製薬グループ全体でサプライチェーンを包括的に捉え、より効率的な生産および安定供給を実現するための体制を構築していきます。

【グループの生産拠点】



現場の声

グループ生産体制の中心的拠点である能代工場は、原料・中間製品を自動的に搬送するフロービン生産システムをはじめ、自動化による高効率な設備を有し、「働く人に優しい、生産性の高い工場づくり」を推進しています。その中で、「品質確保」「安定供給」「コスト低減」に向けた明確な方針を掲げ、それを達成するための実行プログラムに各課が一丸となって取り組んでいます。今後も、元気で活気ある職場環境を維持し、高い創造力を発揮できる組織の構築を目指していきます。

連携による価値向上

■新生産体制の構築を推進

生産部門ではすべての生産工場において品質保証基準であるGMP（Good Manufacturing Practice）の高度化を図っており、品質システムおよびGMP基準の世界調和を目的としたPIC/S（Pharmaceutical Inspection Convention and Pharmaceutical Inspection Co-operation Scheme）にも対応できるよう本社と直結した品質保証体制を整えています。重要課題であるグループ生産体制の全体最適化では、杏林製薬（株）岡谷工場の生産機能をキョーリン製薬グループ工場（株）に移転するプロジェクトを進めています。キョーリン製薬グループ工場（株）、岡谷工場、能代工場の連携を深めることで、スムーズな移転を実現します。

■後発医薬品生産の協業

杏林製薬（株）やキョーリン製薬グループ工場（株）の生産部門から後発医薬品を生産するキョーリン リメディオ（株）に社員を派遣し、技術の共有や製造支援を行い後発医薬品の安定供給を図るためグループ内で社員同士の連携を活発化させています。また、キョーリン リメディオ（株）が生産機能を有する注射剤等の品目について杏林製薬（株）から受託製造も行うなどグループ生産の全体最適化のための協業を行っています。

特集：価値創造のための連携

営業

杉林 正英
杏林製薬（株）
上席執行役員　営業本部長

医療用医薬品市場の環境が大きく変化する中、当社営業部門は重点領域（呼吸器科・耳鼻科・泌尿器科）でのさらなるプレゼンス向上を引き続き目指していきます。そして、これら領域の先生方との信頼関係を構築し、薬物治療に貢献することで持続的な成長を果たします。

特定領域におけるプレゼンスの確立を目指す

MRは、「薬物治療のパートナー」として医師をはじめとする医療従事者の方々に、医薬品の適正使用を促すための情報提供・収集・伝達を行っています。MR数 約750名の杏林製薬（株）は、「呼吸器科」「耳鼻科」「泌尿器科」を中心とした定期訪問医師に行動を重点化するフランチャイズ・カスタマー戦略を展開し、特定領域（FC3領域）の医師約77,000名との強固な信頼関係の構築に努め、主力製品の普及の最大化を目指しています。

同戦略を強化する営業体制として「チーム制」（一定のエリアを複数のMRで担当する制度）を導入し、MR個々の能力を発揮させるとともに、医療関係者のニーズを的確に把握し、迅速な対応を組織的に実現できるよう取り組んでいます。そのベースとなるものが、チームで目標を達成する喜びをMR同士が感じ合える風土づくりの促進であり、これからもチーム一丸となって組織目標の達成に挑戦します。

2013年度は、新製品として発売した喘息治療配合剤「フルティフォーム」、潰瘍性大腸炎治療剤「ペンタサ坐剤1g」の市場浸透に積極的に取り組むだけでなく、主力製品の普及に努め、過去最高の売上高を達成しました。

製品別・剤型別にきめ細かく立案した計画に基づき、医師とのコミュニケーションの頻度を高め、着実に成果を上げてきましたが、次年度も環境変化に対応した営業戦略を推進し、新製品「フルティフォーム」の採用・処方軒数の拡大を加速させるとともに、既存主力品の処方獲得の最大化を目指します。

医師から信頼されるMRの育成が競争力を高める

持続的に主力製品の処方を拡大するためには、MR一人ひとりの知識・技能および人間性を含めた総合力を高めることが重要です。

新入社員には、製品知識および周辺知識の学習や医療に携わるものの考え方の醸成を推進し、入社後2年目・3年目の社員には、プレゼンテーションやコミュニケーションスキルを高める研修を行い、医療従事者のニーズを捉え、そのニーズに応えることができるMRを育成しています。また、全体としては営業本部の学術部による月例研修の実施だけでなく、グループ人材マネジメント方針に基づいた組織的・体系的な教育プログラムの施行により人材の育成を強化しています。

医師との信頼関係の構築としては、営業部門の主催で専門医を対象とした講演会や研究会、説明会を実施し、医師との関係性の向上に取り組むほか、営業業務にタブレット端末を導入するなど、常に新しい情報提供・収集活動を強化する方策を図り、全社一丸となって専門医との関係性の向上に取り組んでいます。

連携による価値創造

■後発医薬品の拡大に向けて

キョーリン リメディオ(株)と杏林製薬(株)は、連携して後発医薬品の販売を行っています。新薬事業を中心とする杏林製薬(株)のノウハウ・ネットワーク・情報を活用することにより、後発医薬品の売上拡大を目指しています。

■環境除菌・洗浄剤「ルビスタ」の普及

キョーリン メディカルサプライ(株)と杏林製薬(株)のヘルスケア事業部は協業し、杏林製薬(株)が販売する医療用医薬品の取引先であり、かつ感染防止対策加算1を取得する施設を中心にアプローチ。施設環境衛生事業の主力製品として最大限の注力をする環境除菌・洗浄剤「ルビスタ」の普及促進に取り組んでいます。

現場の声

私たちは、薬剤による疾病治療の一端を担う製薬企業のMRとして、医師の問題を解決できる有用な情報の提供を心がけ、信頼関係の構築に努めています。特に、医師のニーズに応じた情報を適切に提供することが重要だと考えています。杏林製薬の営業の特徴は、FC戦略に基づき、特定領域に営業活動を集中化しているため、重点領域の医師との関係度が高いことです。また「チーム制」の導入により、個々の経験・能力を共有し、お互いを高め合う文化があり、目標に向かい全社員が一丸となって日々活動しています。私たちは、医師の薬剤による治療内容を充分に理解した上で様々な提案ができるMRへと成長し、医療の発展や人々の健康に貢献していきます。

特定領域でのプレゼンス

特定領域における高いプレゼンスの確立を目指す

杏林製薬(株)では、「呼吸器科」「耳鼻科」「泌尿器科」専門医を中心とする定期訪問先に対する営業活動、情報提供活動を重点化し、医薬品事業の競争力を高めるフランチャイズ・カスタマー(FC)戦略を推進しています。特定領域の医師との信頼関係構築、FC領域における製品ラインナップの充実に取り組み、高いプレゼンスの確立さらには持続成長を目指します。

「呼吸器領域」「泌尿器領域」における関連製品

呼吸器領域
「フルティフォーム」の市場浸透

杏林製薬(株)では、重点化している呼吸器領域においてこれまで「キプレス」、「ムコダイン」を提供し、専門医との信頼関係強化に取り組んできました。昨年11月には気管支喘息治療へのさらなる貢献を図るべく、喘息治療配合剤「フルティフォーム」を新発売しました。「フルティフォーム」は強い抗炎症作用と早い効果発現の特徴を有しているだけでなく、確実かつ簡便な吸入が可能な薬剤です。既存治療において充分に症状がコントロールされていない患者さんのニーズに応える薬剤として情報提供、理解促進に努め、患者さんの利便性が一段と高まる処方制限解除(予定:2014年12月)を機に飛躍的な市場浸透を図ります。

呼吸器領域における開発パイプラインでは、現在承認申請中の慢性閉塞性肺疾患(COPD)治療剤「KRP-AB1102」、PhⅢの開発段階にある「KRP-AB1102F」、PhⅡの開発段階にあるニューキノロン系合成抗菌剤「KRP-AM1977X、Y」などが控えています。これまで培ってきた医療関係者との信頼をベースとして、臨床開発のノウハウ・人脈・ネットワークなどを活用し、よりスピーディに開発を進め、これら新薬を患者さんの元に1日も早くお届けできるように最大限、注力してまいります。私たちは、呼吸器領域において患者さんやご家族、医療に携わる方々からこれまで以上に価値ある企業として認められるよう、挑戦し続けます。

泌尿器領域
製品普及の最大化と開発パイプラインの強化に向けて

もう一つの重点領域である泌尿器領域では、過活動膀胱(OAB)治療剤「ウリトス」を医療現場に提供しています。売上は順調に推移しており、引き続きファーストチョイスでの処方提案を積極的に推進するとともに、潜在患者さんが多いOAB市場の拡大により同製品の普及の最大化に努めてまいります。開発パイプラインの充実としては、2013年10月より泌尿器領域に強みを持つキッセイ薬品工業(株)と共同で新規OAB治療剤「KRP-EPA605」のPhⅠ臨床試験を開始しました。また、2014年7月には米国メルク社とOAB治療剤「KRP-114V」に関する国内ライセンス契約を締結しました。今後も、泌尿器領域でのプレゼンスの確立に向けて、研究開発活動、ライセンス活動等を積極的に展開し開発パイプラインの強化に取り組みます。

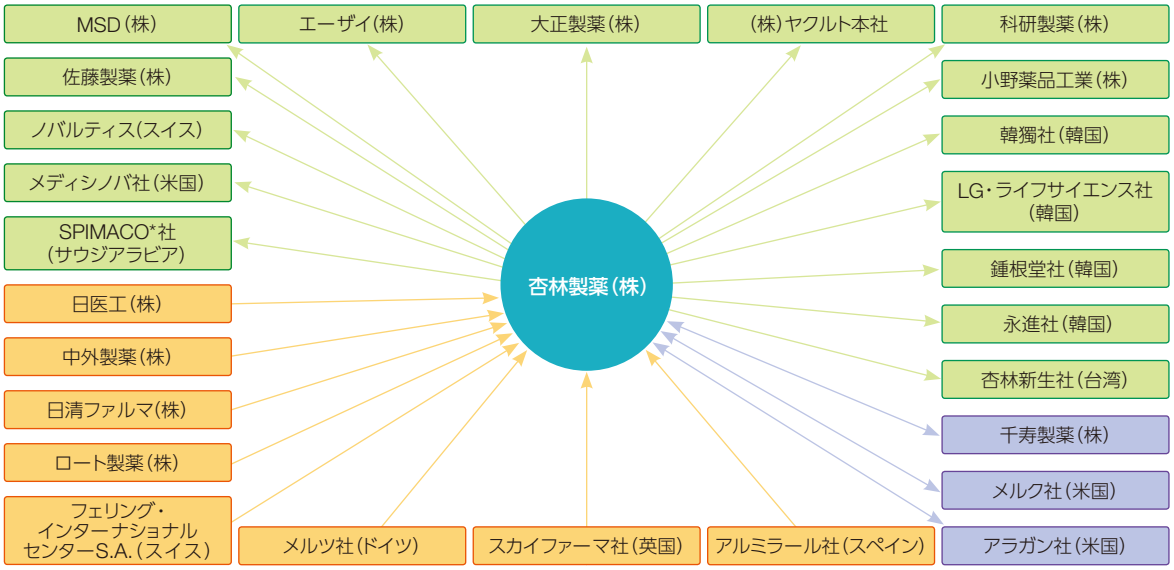
アライアンス

アライアンス戦略により特定領域におけるパイプラインの充実を図る

当社グループの中核子会社である杏林製薬(株)は、特定領域における高いプレゼンスの確立を目標として掲げ、製品パイプラインの充実に取り組んでいます。世界的に有望な新薬が枯渇する中、競合他社の存在もあり、導入品の獲得は非常に厳しい状況にあります。このような状況下、FC領域(呼吸器科、泌尿器科、耳鼻科)において「フルティフォーム(喘息治療配合剤)」「KRP-209(耳鳴治療剤)」「KRP-AB1102(慢性閉塞性肺疾患治療剤)」「KRP-AB1102F(慢性閉塞性肺疾患治療剤)」を導入、「KRP-EPA605(過活動膀胱治療剤)」につきましては、キッセイ薬品工業(株)と共同開発を開始しました。これは、すべての導出元企業あるいは、共同開発企業が当社グループに魅力を感じ、信頼できるパートナーであると確信したからこそ得られた成果であり、当社グループが展開するFC戦略が、着実に国内外の医薬品業界に浸透してきたことの証であると考えます。今後も信頼され、存在意義を認められる企業として魅力的なパイプラインの構築に向け、全社員が一丸となって力を結集し取り組みます。

国内外製薬企業とのアライアンスの促進

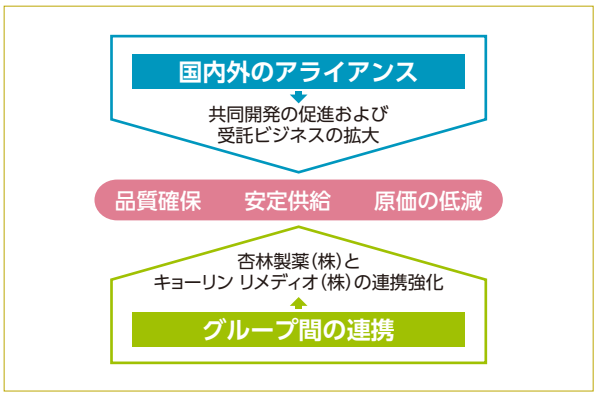
杏林製薬(株)は自社創薬とともに、外部との積極的なコラボレーションにより、医薬品メーカーとしての最重要課題である製品パイプラインの充実・強化を推進しています。



* SPIMACO: Saudi Pharmaceutical Industries & Medical Appliances Corporationの略

後発医薬品における共同開発・受託製造の推進

後発医薬品事業では、グループ間の連携強化と国内外のアライアンスを推進し、品質確保、安定供給、原価の低減に取り組んでいます。自社による後発医薬品の開発・製造を推し進める一方、他社との共同開発および受託製造というビジネスモデルの拡大を積極的に推し進め、特徴、競争力のある後発医薬品事業の強化を図ります。



主要製品

医薬品事業

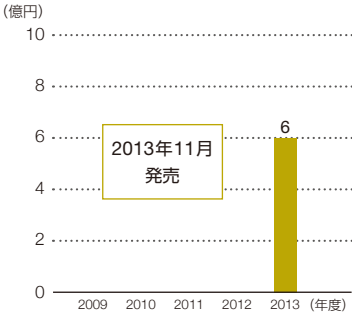
フルティフォーム

喘息治療配合剤

フルティフォーム50 エアゾール 56 吸入用

フルティフォーム125 エアゾール 56 吸入用

売上高



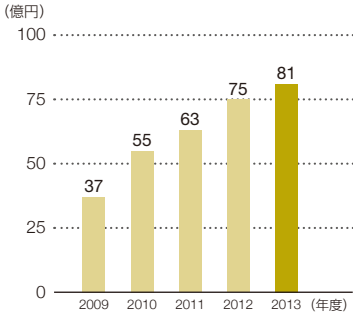
ウリトス

過活動膀胱治療剤

ウリトス錠0.1mg

ウリトスOD錠0.1mg

売上高



キプレス

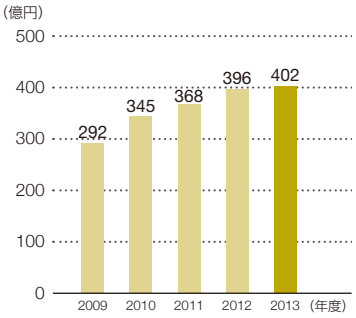
ロイコトリエン受容体拮抗剤
気管支喘息・アレルギー性鼻炎治療剤

キプレス錠5mg／キプレス錠10mg

ロイコトリエン受容体拮抗剤
気管支喘息治療剤

キプレス細粒4mg／
キプレスチュアブル錠5mg

売上高



ペンタサ

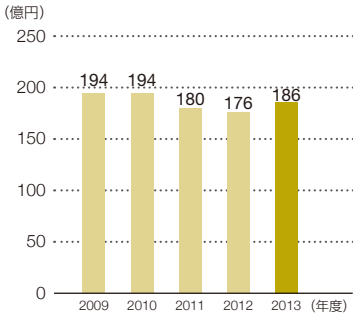
潰瘍性大腸炎・クローン病治療剤

ペンタサ錠250mg／ペンタサ錠500mg

潰瘍性大腸炎治療剤

ペンタサ注腸1g／ペンタサ坐剤1g

売上高



ムコダイン

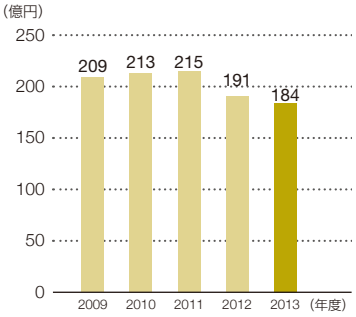
気道粘液調整・粘膜正常化剤

ムコダイン錠250mg／ムコダイン錠500mg

ムコダインシロップ5%

ムコダインDS 50%

売上高

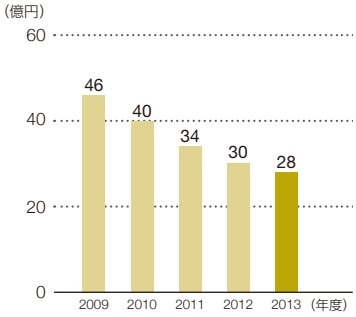


ケタス

ホスホジエステラーゼ阻害剤
気管支喘息・脳血管障害改善剤

ケタスカプセル10mg

売上高



ヘルスケア事業

ミルトン

殺菌消毒剤「ミルトン」は1963年の発売以来、赤ちゃんの健やかな成長を願うママを応援。哺乳びん殺菌消毒剤のトップブランドとして産婦人科の医師や看護師の方々からも広く支持されています。

ルビスタ

2012年に新発売した環境除菌・洗浄剤「ルビスタ」は、医療機関等で感染予防および病原微生物の蔓延防止を目的とした衛生管理に使用されています。

キョーリン メディカルサプライ(株)―杏林製薬(株)の連携による環境衛生事業展開

キョーリン製薬グループは、ヘルスケア領域における新規事業の創出を掲げ、ヘルスケア事業での多核化を通じ、医薬品事業のリスク補完とグループの持続成長を目指しています。このような方針の下、現在、環境感染の制御を通じて医療ニーズ・健康に貢献すべく、環境衛生事業に取り組んでおり、当事業の新製品として環境除菌・洗浄剤「ルビスタ」を2012年7月に発売しました。

本製品を導入したキョーリン メディカルサプライ(株)と、医療分野での実績とノウハウを有する杏林製薬(株)が共同で医療機関、介護施設、公共施設等向けに販売をしています。これまでの主要製品である「ミルトン」の販売強化、さらに環境衛生事業における製品ラインナップの強化に取り組み、グループ内の連携により普及の拡大を図っていきます。

開発品の動向 (2014年7月29日現在)

PhⅢ～申請中

製品名・開発コード	薬　効	起　源	特　徴	開発段階 (PhⅠ / PhⅡ / PhⅢ / 申請)
KRP-AB1102 (吸入剤)	慢性閉塞性 肺疾患	スペイン アルミラール社	アセチルコリン受容体拮抗作用によりCOPDに伴う呼吸困難、息苦しさなどの諸症状を改善する長時間作用型ムスカリンM3拮抗剤(アクリジニウム) ①全身性副作用が少ない ②1日2回投与により1日を通じて症状、呼吸機能改善 ③最大効果発現までの時間が短い ※吸入器:Genuairを使用	14年3月
KRP-AB1102F (吸入剤)	慢性閉塞性 肺疾患	スペイン アルミラール社	長時間作用型ムスカリンM3拮抗剤(LAMA:アクリジニウム)と長時間作動型β作動薬(LABA:ホルモテロール)の配合剤	13年8月
KRP-114V	過活動膀胱	米国 メルク社	膀胱のβ_3受容体に作用する事で、膀胱弛緩作用を増強し、頻尿の改善が期待される	準備中

【参考情報】海外の状況
■KRP-AB1102　欧州:アルミラール社(12年9月上市)、米国:フォレスト社(12年12月上市)
■KRP-AB1102F　欧州:アルミラール社(13年10月申請)、米国:フォレスト社(申請準備中)

POCプロジェクト(PhⅠ～PhⅡ)

製品名・開発コード	薬　効	起　源	特　徴	開発段階 (PhⅠ / PhⅡ / PhⅢ / 申請)
KRP-209	耳鳴	ドイツ メルツ社	NMDA受容体拮抗作用およびニコチン作動性アセチルコリン受容体拮抗作用を有し、耳鳴に伴う心理的な苦痛、生活障害の改善が期待される	11年8月
KRP-203	自己免疫疾患、 臓器移植、IBD	自社	S1P受容体アゴニスト。新規メカニズムを有する免疫調節剤。既存の免疫抑制剤に比べて安全性が高く、かつ優れた併用効果が期待される	13年3月
KRP-AM1977X (経口剤)	ニューキノロン 系合成抗菌剤	自社	①薬剤耐性グラム陽性菌(MRSAを含む)に対して優れた抗菌力 ②優れた体内動態(経口吸収、組織移行) ③前臨床試験で安全性はクリア、高い安全性を期待	13年9月
KRP-AM1977Y (注射剤)	ニューキノロン 系合成抗菌剤	自社		14年6月
KRP-EPA605	過活動膀胱	自社	プロスタグランジンEP1受容体拮抗作用を有し、膀胱の排尿筋過活動を抑制することにより頻尿の改善が期待される(キッセイ薬品工業(株)との共同開発)	13年10月

【参考情報】海外の状況
■KRP-209　メルツ社　PhⅢ

導出品の状況

製品名・開発コード	導出先・共同研究先	薬　効	起　源	備　考		開発段階 (PhⅠ / PhⅡ / PhⅢ / 申請)
KRP-203	スイス ノバルティス	自己免疫疾患、 臓器移植、 IBD	自社	• S1P受容体アゴニスト。新規メカニズムを有する免疫調節剤。既存の免疫抑制剤に比べて安全性が高く、かつ優れた併用効果が期待される • ノバルティスとライセンス契約(06年2月)、IDBにおける新たなライセンス契約(10年11月)	海外	POC 10年12月

その他

・遺伝子治療用医薬品「Ad-SGE-REIC製剤」(対象疾病:悪性胸膜中皮腫)を開発(予定)
・医療上の必要性の高い未承認薬・適用外薬に該当する「ジメチルスルホキシド」(対象疾病:間質性膀胱炎)を開発(予定)
・過活動膀胱治療剤「ウリトス」:2013年7月韓国で発売(鐘根堂社)

経営の基本方針

当社グループは、「キョーリンは生命を慈しむ心を貫き、人々の健康に貢献する社会的使命を遂行します。」を企業理念としています。この理念の具現化に向けて、長期ビジョン「HOPE100」を策定し、ヘルスケア事業を多核的に展開・発展させ、健全な健康生活応援企業への進化を目指します。

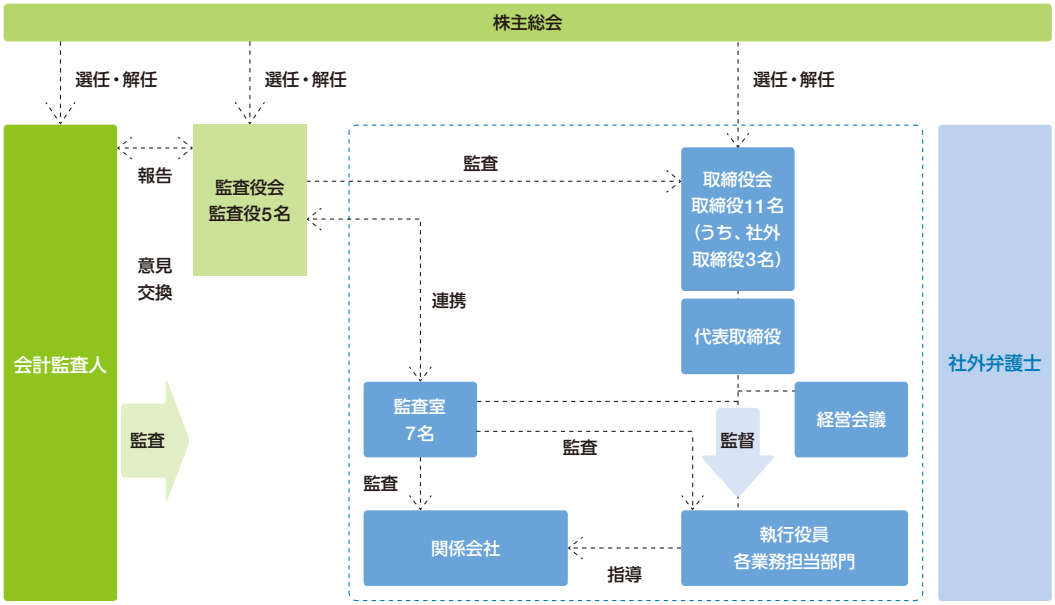
コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社は「継続的な株主価値の向上」を経営の最重要事項としています。その実現のためには社会から信頼を得られる経営の環境整備が必要であり、コーポレート・ガバナンスの充実を重要な課題と位置づけ、意思決定の迅速化、経営の妥当性の監督機能強化、企業倫理に根ざした企業活動、企業活動の透明性の確保などに取り組んでいます。株主ならびに投資家の皆様に対しましては経営の透明性、フェア・ディスクロージャーの観点から、適切かつ迅速な情報開示を実施するよう努めています。ホームページにおきましても株主・投資家情報のページを設けて、決算データ・決算説明会資料・有価証券報告書・ニュースリリースなどの掲載により、当社の発信情報が、いつでも、誰にでもご覧いただける体制を整えています。今後もさらに積極的な情報開示を進め、ステークホルダーの皆様との充分なコミュニケーションを図っていきます。

当社は監査役設置会社であり、監査役会は、監査・監督機能を充分発揮して、取締役会の意思決定に係る透明性の確保に努めるとともに、各監査役は期初に監査役会が策定した監査方針および監査計画に従い監査を行っています。また、取締役会や経営会議など重要会議への出席、重要な決裁書類の資料の閲覧、各部・事業所・グループ会社の調査など多面的な監査を行っています。

当社は、企業の社会的責任（CSR）を自覚しキョーリン製薬グループ各社にコンプライアンス推進・リスク管理担当者を置くとともに「コンプライアンス委員会」と「リスク管理委員会」がグループ全体のコンプライアンスおよびリスク管理の対応を統括・推進する体制を構築しており、グループ会社ごとのガイドラインを策定した上で、グループ全体の相談・通報体制を整えています。なお関係会社の管理に当たっては「関係会社管理規程」を制定し、その経営などは自主性を尊重しつつ、事業内容の定期的な報告と重要案件についての事前協議を行う指導体制とし、また社内監査部門は「内部監査規程」に基づき関連会社の監査を実施し、監査結果に応じて統括部署が指示、勧告または適切な指導を行っています。

コーポレート・ガバナンスの基本構造と経営執行組織（2014年6月24日現在）



会社機関の内容

1. 会社機関の内容

当社は経営の意思決定および業務遂行の監督機能を担う取締役(11名)と業務執行機能を担う執行役員(3名)の役割を明確に区分するために執行役員制度を導入しています。取締役会は月1回の開催を原則とし、業務執行に関する重要事項の決定、取締役の職務の執行を監督する場として、充分な議論と時宜を得た意思決定を図っています。業務執行に関しては、社長および取締役からなる経営会議を設置し、当社およびグループ会社の業務執行に関する重要事項を協議しています。さらに2014年6月開催の定時株主総会において、社外取締役(3名)を選任し、その独自性および豊富な経験、高度な専門性を活かして経営の透明性と監督機能の強化を図っています。

また、当社は監査役制度を採用しています。監査役会は常勤監査役2名、非常勤監査役(社外)3名の計5名で構成し、監査・監督機能の発揮による透明性の高い意思決定のできる仕組みを整備しています。

2. 内部統制システムおよびリスク管理体制の整備状況

内部統制システムにつきましては、当社の定めた基本方針に沿った体制を構築しています。

- 担当役員を委員長とし、社内監査室長も委員として参加する「コンプライアンス委員会」を設置しています。役職員には、コンプライアンス研修等により徹底指導し、社内違反行為については、企業倫理ホットラインを設置しています。また、財務報告の適正を確保するために社内規程を制定し、当社グループの財務報告に係る内部統制の有効性と信頼性を確保できる体制を構築しています。
- 担当役員を委員長とし、グループ総務人事統轄部を統括部署とした「リスク管理委員会」を設置し、リスクの軽減・未然防止体制の構築および運用を行います。コンプライアンス、環境、災害等に係るリスクについては「リスク管理規程」および「企業倫理コンプライアンス規程」を制定し、速やかに対応する体制をとります。有事においては社長を本部長とした「有事対策本部」を設置し、危機管理にあたります。

詳細に関しましては、http://www.kyorin-gr.co.jp/company/governance.shtmlをご参照ください。

3. 監査体制について

①内部監査の状況

内部監査につきましては、通常の業務部門とは独立した社長直轄の監査室(7名)が年度ごとに作成する「監査計画」に基づき、当社およびグループ会社の経営活動における法令遵守状況と内部統制の有効性・効率性について定期的に検討・評価しています。内部監査の過程で確認された問題点、改善点などは直接社長へ報告するとともに改善のための提言を行っています。

また、財務報告に係る内部統制の評価部署として、予め定めた評価範囲を対象にその統制の整備状況・運用状況の有効性を評価し、社長へ報告を行っています。

②監査役監査の状況

各監査役は、期初に監査役会が策定した監査方針および監査計画に従い監査を行っています。また、取締役会や経営会議など重要会議への出席、重要な決裁書類・資料の閲覧、各部・事業所・グループ会社の調査など多面的な監査を行っています。

役職員が法令・定款に違反する行為などを知った場合は、直ちに監査役に通報する体制をとっており、役職員との緊密な連携と監査に対する理解を深めることにより、監査役監査の効率化への環境整備に努めています。また、必要に応じて監査役の業務補助のため監査役スタッフを置くこととし、その人事は取締役と監査役が調整し独立性に配慮することとしています。

なお、常勤監査役 宮下征佑は杏林製薬(株)の取締役経理部長を経験しており、財務および会計に関する相当程度の知見を有しています。

③社外取締役および社外監査役

当社の社外取締役は3名、社外監査役は3名であります。

社外取締役 尾崎仙次については、B-Rサーティワンアイスクリーム(株)の取締役会長として経営についての豊富な経験を有していることから、適任であると総合的に判断しました。また、社外取締役としての業務を遂行する上で当社の一般株主と利益相反が生じるおそれのある事由はなく、独立性が高いものと認識しています。なお、同氏が取締役会長であるB-Rサーティワンアイスクリーム(株)と当社との間には、購入、販売等の取引関係はありません。

社外取締役 鹿内徳行については、弁護士として企業法務にも精通し、慶應義塾大学理事等の要職を務めるなど、その高度な専門性と豊富な経験から、適任であると総合的に判断しました。また、社外取締役としての業務を遂行する上で、当社の一般株主と利益相反が生じるおそれのある事由はなく、独立性が高いものと認識しています。

社外取締役 高橋卓については、帝人(株)の取締役としての経験に基づく見識を有していることから、適任であると総合的に判断しました。なお、同氏が取締役であった帝人(株)と当社との間には、購入、販売等の取引関係はありません。

社外監査役3名についてはいずれも経営陣や特定の利害関係者の利害に偏ることの無い中立的立場で企業法務、財務・会計等に関する相当程度の知見を有しており、専門的見地と広い見識・経験を活かした監査機能の充実、強化が図られています。

なお、社外監査役 小幡雅二は弁護士として企業法務に精通しており、財務および会計に関する相当程度の知見を有しています。

当社は、社外取締役または社外監査役を選任するための独立性に関する基準または方針として明確に定めたものはありませんが、選任にあたっては、経歴や当社との関係を踏まえて、当社経営陣からの独立した立場で社外役員としての職務を遂行できる十分な独立性が確保できることを前提に判断しております。

④会計監査の状況

当社は、会社法および金融商品取引法の規定に基づき、新日本有限責任監査法人により監査を受けています。

会計監査人である新日本有限責任監査法人には、決算期における会計監査のほか、適宜アドバイスをいただいています。

なお、監査業務を執行した公認会計士等は次のとおりです。

(公認会計士の氏名等)
指定有限責任社員 業務執行社員 網本 重之
指定有限責任社員 業務執行社員 加藤 秀満

監査業務に係る補助者の構成は、公認会計士12名、その他7名です。

監査役会は監査室および会計監査人と定期的かつ綿密な情報・意見交換を行うことにより、監査体制の充実を図っています。

4. 会社と会社の社外取締役および社外監査役の人的関係、資本的関係または取引関係その他の利害関係の概要

該当事項はありません。

5. 役員報酬の内容

①役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額および対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額(百万円)	報酬等の種類別の総額(百万円)	対象となる役員の員数(人)
		基本報酬	
取締役(社外取締役を除く)	188	188	7
監査役(社外監査役を除く)	30	30	2
社外役員	29	29	5

②使用人兼務役員の使用人分給与のうち重要なもの

該当事項はありません。

③役員の報酬等の額またはその算定方法の決定に関する方針の内容および決定方法

当社は役員の報酬等の額またはその算定方法の決定に関する方針は定めておりません。

6. 取締役の定数

当社の取締役は15名以内とする旨、定款に定めています。

7. 取締役および監査役の選任の決議要件

当社は、取締役および監査役の選任決議については、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨、定款に定めています。

8. 取締役会にて決議できる株主総会決議事項

①自己株式の取得

当社は、会社法第165条第2項の規定により、取締役会の決議をもって、自己の株式を取得することができる旨、定款に定めています。これは、経営環境の変化に対応した機動的な資本政策の遂行を可能とするため、市場取引などにより自己株式を取得することを目的とするものです。

②剰余金の配当などの決定機関

当社は、剰余金の配当など会社法第459条第1項各号に定める事項については、法令の別段の定めがある場合を除き、株主総会の決議によらず、取締役会の決議によって定める旨、定款に定めています。これは、機動的な資本政策を行うことを目的とするものです。

9. 株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める決議は、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨、定款に定めています。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものです。

役員紹介 (2014年6月24日現在)

左から、高橋 卓、荻原 豊、尾崎 仙次、穂川 稔、金井 覚、山下 正弘、小室 正勝、宮下 三朝、荻原 茂、松本 臣春、鹿内 徳行

代表取締役社長
山下　正弘

取締役
宮下　三朝
杏林製薬株式会社
代表取締役社長

専務取締役
穂川　稔
グループ経営企画統轄部長(兼)
グループ経理財務統轄部担当

常務取締役
松本　臣春
グループ総務人事統轄部長(兼)
グループ法務統轄部・
グループコンプライアンス
統轄部担当

取締役
荻原　豊
社長室長(兼)
コーポレートコミュニケーション統轄部・
グループ情報システム統轄部担当

取締役
小室　正勝
グループ知的財産統轄部担当

取締役
金井　覚
キョーリン メディカルサプライ
株式会社
代表取締役社長

取締役
荻原　茂
キョーリン リメディオ株式会社
代表取締役社長

取締役(社外)
尾崎　仙次

取締役(社外)
鹿内　徳行

取締役(社外)
高橋　卓

常勤監査役
宮下　征佑
羽磨　寛晃

監査役
小幡　雅二
廣田　保之
小西　勇二

上席執行役員
石崎　孝義
伊藤　洋

執行役員
吉田　与志也

CSRの取り組み

キョーリン製薬グループのCSRの原点は「キョーリンは生命を慈しむ心を貫き、人々の健康に貢献する社会的使命を遂行します。」という企業理念にあります。キョーリン製薬グループは、持続的に成長していくために、医療関係者をはじめ顧客、株主、投資家、従業員、取引先、地域社会との信頼関係の構築・維持を大切に考え、信頼ある製品・サービスを提供するとともに、企業としての社会的責任を果たすべく環境・労働安全衛生、社会貢献活動等に継続して取り組んでいます。

企業の社会的責任

キョーリン製薬グループは、企業の社会的責任の重要性を認識し、以下のような考え方で企業倫理の高揚と、コンプライアンス体制を整えるべく取り組みを行っています。

コンプライアンスに対する取り組み

基本方針

企業は、公正な競争を通じて利潤を追求するという経済的主体であると同時に、広く社会にとって有用な存在であることが求められています。

キョーリン製薬グループは、「キョーリンは生命を慈しむ心を貫き、人々の健康に貢献する社会的使命を遂行します。」という企業理念の下、国の内外を問わず、人権を尊重するとともに、すべての法令、行動規範およびその精神を遵守し、高い倫理観を持って行動します。

取り組み

高い倫理観を持って企業行動を展開するために、「キョーリン製薬ホールディングス企業行動憲章」と「コンプライアンス・ガイドライン」を2010年8月に現状に即して改訂しました。さらに、月1回コンプライアンス委員会を開催し、コンプライアンスを遵守する体制を構築しています。

1.「キョーリン製薬ホールディングス企業行動憲章」は、企業理念に基づき企業倫理およびコンプライアンスの具現化に向けて制定されたもので、当社の企業行動の原点となるものです。

2.「コンプライアンス・ガイドライン」は、「キョーリン製薬ホールディングス企業行動憲章」を補完するものであり、健全かつ正当な事業活動を行うための基準を明確化したものです。

3.企業倫理およびコンプライアンス体制を総括管理するため、2006年3月より「コンプライアンス委員会」を設置しています。また、各事業会社にコンプライアンス推進担当者を置くことにより、企業倫理およびコンプライアンスの理解・浸透を図っています。

教育研修

企業倫理およびコンプライアンスの理解・浸透を図るべく、社内研修を行っています。

1.コンプライアンス担当部署が中心となって、全社的な階層別研修において、企業倫理およびコンプライアンスに関する教育研修を実施するとともに、当社の役員および従業員に対する啓発活動を展開しています。

2.各部門で実施する職能教育などにおいて、企業倫理およびコンプライアンスに関する内容を盛り込み、従業員の理解・浸透と業務への反映を図っています。

3.毎年11月をコンプライアンス強化月間とし、その浸透に努めています。

環境への継続的な取り組み

キョーリン製薬グループの主たる子会社である杏林製薬(株)では主に以下の活動を継続して実施しています。

なお、詳細につきましては、杏林製薬(株)のホームページに掲載している「環境労働安全衛生報告書」をご覧ください。

1. 地球温暖化防止

- コ・ジェネシステム導入、ボイラー小型化などによる燃料使用量削減
- 空調温度管理(夏28℃・冬21℃)等による使用電力削減
- エコカー・ハイブリッドカー導入による燃費向上と排気ガス削減

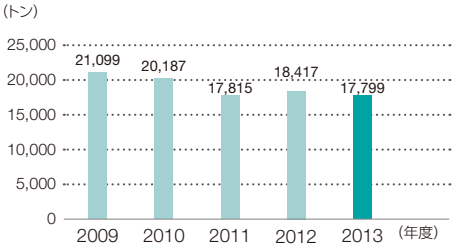
2. 廃棄物発生量の削減

- 排出量削減とリサイクル促進、最終埋め立て量ゼロへの挑戦、マイナスカーボンプリンティングシステムの導入

3. 化学物質の管理

- PRTR法対象物質管理と見直し(使用量削減と代替の検討)

工場・研究所のCO_2排出量の推移



* 2009～2013年度は定期報告書のデータ

4. 大気汚染の防止

- ボイラーおよび発電機からのばい煙、NOx、SOx排出量測定・管理

5. 水質汚濁の防止

- 排水処理棟・一次処理装置による処理、pH・BOD・SS管理

6. 森林破壊の防止

- 用紙リサイクル、再生紙利用、業務のペーパーレス化推進

7. 騒音の削減

- 騒音測定管理と対応

8. 悪臭発生の防止

- ドラフトチャンバー（排気粉塵等吸収排出装置）設置、スクラバーによる洗浄脱臭等

労働安全衛生に関する取り組み

杏林製薬（株）では、労働安全衛生マネジメントシステム（OHSAS18001）の認証を、2004年に全社で取得、2005年には全社でISO14001、OHSAS18001の仕組みの統合を行いました。

また、子会社のキョーリン リメディオ（株）のリメディオセンターも2008年にISO14001、2009年にOHSAS18001の認証を取得しました。

1. 度数率・強度率について

労災事故防止の取り組みにより、災害発生の頻度と災害の重さを示す度数率・強度率とも、業界水準を大きく下回っています。また、労災による死亡事故は、創業以来発生していません。

2. 車両事故件数について

2013年度は各支店ごとに前年度に対して事故件数低減を目指し、トータルで176件と前年度より36件減少しました。車両事故減少のため、2014年度は、さらにハード面、ソフト面から様々な施策を通じて事故防止に取り組んでいます。

リスク管理に対する取り組み

当社では、リスクの発生予防に係る管理体制の整備、発生したリスクへ対応するため、「リスク管理委員会」を設置しています。併せて、各事業会社にリスク管理推進担当者を配置し、リスク管理に対する意識の向上と浸透を図っています。

社会貢献活動

1. 地域社会とのコミュニケーション

- **観桜会**

杏林製薬（株）創薬研究所、開発研究所では、樹齢40年を超える桜を見る会を毎年実施しており、2013年度も多数の方が訪れました。これを機会に当社の環境・労働安全衛生の取り組みをご説明させていただきました。

- **納涼会**

杏林製薬（株）開発研究所および各工場では、毎年の納涼会に周辺住民の皆様をお招きし、企業活動への理解を深めていただく機会として好評をいただいています。

- **地域清掃活動**

杏林製薬（株）岡谷工場では、諏訪湖畔の一定区間を受け持ち、美化活動を行う「諏訪湖アダプトプログラム（里親制度）」を実施しています。当活動も10年以上が経過し、表彰を受けました。また、社員一斉参加による湖畔公園の清掃も実施しました。

杏林製薬（株）能代工場では、郷土の防風林として、また憩いの場所として市民に親しまれている「風の松原」の清掃ボランティア活動に参加しています。

本社では、年2回の千代田区の清掃ボランティアに、有志従業員が自主的に参加しています。

- **スポーツイベントの支援**

当社グループは元Jリーガーなどサッカー選手が子供たちにサッカーを指導するスポーツイベント「しもつけサッカーセミナー」に協賛しています。

2.社員の自発的な社会貢献・健康貢献活動への取り組み

当社グループでは、社員の自発的な社会貢献・健康貢献活動として「キョーリンスマイルプログラム」を推奨しており、社員が献血活動、募金活動などの活動を行っています。

2013年度においては、当社グループは社員の募金額127,416円をユニセフへ寄付しました。また、使用済み切手をグループ全体で2.4kg回収し、「ジョイセフ（家族計画国際協力財団）」へ寄付しました。寄付した使用済み切手は、「ホワイトリボン運動」と呼ばれる世界中のお母さんと赤ちゃんの命を守る活動資金に活用されます。

3. 東日本大震災復興支援

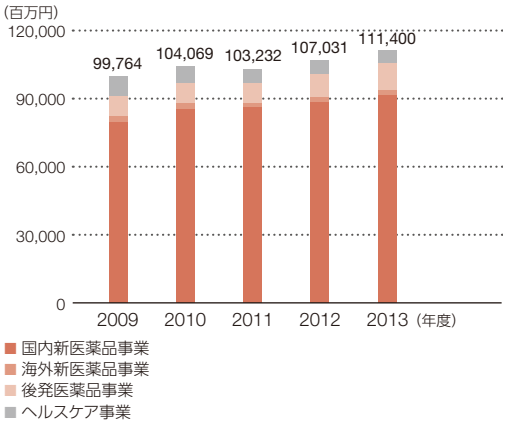
- **ひまわりプロジェクト**

杏林製薬（株）の創薬研究所、開発研究所、仙台支店では、ひまわりの苗を育てて東日本大震災の被災地に届ける「ひまわりプロジェクト」に2011年より参加しています。

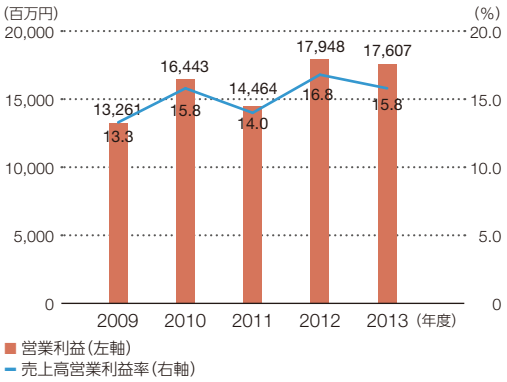
被災地の一日も早い復興を願い、多くの皆様に笑顔の花が咲くように、今後も継続していきます。

財務分析

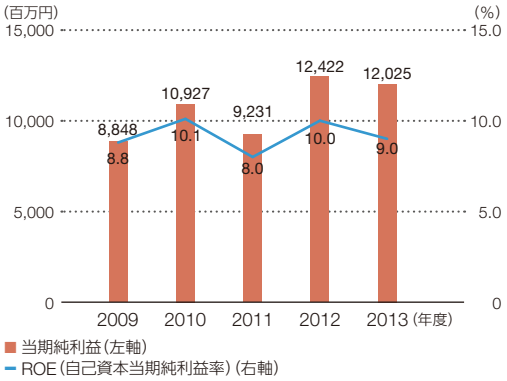
売上高



営業利益および売上高営業利益率



当期純利益およびROE(自己資本当期純利益率)



事業の概要

キョーリン製薬グループは、医薬品の研究開発、製造および販売を主たる事業とする杏林製薬(株)と後発医薬品の製造および販売を主たる事業とするキョーリン リメディオ(株)、スキンケア商品の開発と販売を行うドクタープログラム(株)、販売促進・広告物の企画制作、環境衛生事業などを行うキョーリン メディカルサプライ(株)、他社製品の受託生産を主な事業とするキョーリン製薬グループ工場(株)にて構成されています。持株会社であるキョーリン製薬ホールディングス(株)(以下、当社)は、グループ統轄会社としてグループ全体の経営戦略機能を担い、経営資源の効率的な配分や運用を行っています。

国内の市場動向

2013年度における国内経済は、政府による経済政策への期待やそれに伴う円安、株高傾向に加え、雇用状況の改善、個人消費の拡大などにより緩やかな回復基調で推移いたしました。

このような状況下、当社グループの中核事業が属する国内医薬品業界では、薬剤費の抑制を目的とした諸施策が継続的に実施されたこと等により市場成長は低調に推移し、企業間競争は激化しました。また、ヘルスケア事業では、個人消費の上昇による景気の持ち直しはあったものの、事業環境は厳しい状況が続きました。

連結業績

売上高

2013年度の売上高は、ヘルスケア事業の売上高が減少したものの、医薬品事業における売上高は新薬事業、後発医薬品事業ともに前年度を上回る実績で推移したことから増収となり、1,114億00百万円(前年比4.1%増)と過去最高となりました。

国内新医薬品は、主力製品の続伸に加え、新製品である潰瘍性大腸炎治療剤「ペンタサ坐剤(2013年6月上市)」および喘息治療配合剤「フルティフォーム(2013年11月上市)」の発売、導出品のロイヤリティ収入の増加により、売上は前年度を上回る実績で推移し、また、2012年10月1日より事業を開始したキョーリン製薬グループ工場(株)の売上高も寄与し、売上高は916億68百万円(前年比3.8%増)となりました。主力製品では、気管支喘息・アレルギー性鼻炎治療剤「キプレス」、過活動膀胱治療剤「ウリトス」、潰瘍性大腸炎・クローン病治療剤「ペンタサ」が伸長した一方で、気道粘液調整・粘膜正常化剤「ムコダイン」は前年度を下回りました。

海外新医薬品は、米国における後発品発売の影響により広範囲抗菌点眼剤「ガチフロキサシン(導出先:米国アラガン社)」のロイヤリティ収入が前年度を下回り、また、その他の契約一時金収入が減少(前年度:ガルデルマS.A.[本社:スイス]へ医療用外用抗真菌剤「ペキロンクリーム」に係わる資産を譲渡)したことから売上高は18億49百万円(前年比22.9%減)となりました。

後発医薬品は、後発医薬品の使用促進策等により保険調剤薬局への販売が拡大すると共に他社からの受託生産売上が増加し、売上高は119億87百万円(前年比18.7%増)となりました。

一般用医薬品他は、環境除菌・洗浄剤「ルビスタ」の売上は伸長したものの、その他の売上が減少し、全体としては前年度を下回り、売上高は41億72百万円(前年比4.7%減)となりました。この結果、医薬品事業の売上高は1,096億78百万円(前年比4.3%増)となり、営業利益は169億73百万円(前年比5.5%減)となりました。

ヘルスケア事業は、ナノカプセル技術を応用したスキンケア製品を取り扱うドクタープログラム(株)において、販路を通信販売に集中したため、売上高は前年度を下回る実績となり、売上高は17億21百万円(前年比7.9%減)、営業利益は1億61百万円(前年度は営業損失2億00百万円)と減収・増益になりました。

売上原価率、販売費及び一般管理費、営業利益

売上原価率は、他社製品の受託生産を主な事業とするキョーリン製薬グループ工場(株)を連結子会社化した影響(半期分)等により、38.6%と前年比1.1ポイント上昇しましたが、売上総利益は増収により、前年比14億54百万円増となりました。

販売費及び一般管理費は、販売費・特許等使用料等が増加したことなどにより、507億44百万円(前年比3.7%増)となりました。これらの結果、営業利益は176億07百万円(前年比1.9%減)となりました。売上高営業利益率は1.0ポイント低下し15.8%となりました。

要約連結損益計算書

百万円

	2012年度	2013年度	増減額	増減率(%)
売上高	107,031	111,400	4,368	4.1
売上原価	40,133	43,047	2,913	7.3
売上総利益	66,897	68,352	1,454	2.2
販売費及び一般管理費	48,949	50,744	1,795	3.7
(うち研究開発費)	11,059	11,359	300	2.7
営業利益	17,948	17,607	(340)	(1.9)
営業外収益	790	732	(57)	(7.3)
営業外費用	62	59	(2)	(3.9)
税金等調整前当期純利益	18,603	18,312	(290)	(1.6)
当期純利益	12,422	12,025	(396)	(3.2)

要約連結包括利益計算書

百万円

	2012年度	2013年度	増減額	増減率(%)
少数株主損益調整前当期純利益	12,422	12,025	(397)	(3.2)
その他の包括利益合計	1,843	1,333	(510)	(27.7)
包括利益	14,265	13,358	(907)	(6.4)

当期純利益および1株当たり当期純利益

当期純利益は、120億25百万円(前年比3.2%減)となりました。1株当たり当期純利益は160円95銭(前年比5円30銭減)となりました。

資産、負債および純資産

当年度末の資産は、現金及び預金、有価証券の増加、受取手形及び売掛金の減少等により流動資産が133億73百万円増加し、有形固定資産の増加、投資有価証券、繰延税金資産の減少等により固定資産が10億37百万円増加したため、前年度末と比較して144億10百万円増加し、1,693億78百万円となりました。

負債は、支払手形及び買掛金、その他(流動負債)のうち設備未払金の増加、未払法人税等の減少等により、前年度末と比較して56億88百万円増加し、315億57百万円となりました。

純資産は、利益剰余金、その他有価証券評価差額金の増加等により、前年度末と比較して87億22百万円増加し、1,378億21百万円となりました。

この結果、自己資本比率は81.4%となり、前年度末より1.9ポイント低下しました。

ROE(自己資本当期純利益率)

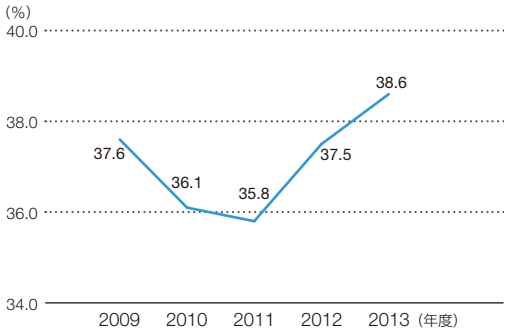
持続成長を目指す当社グループは、売上高および営業利益を成果目標としています。また収益性、ROEの向上にも努めます。2013年度は、前年比1.0ポイント低下し、9.0%となりました。

要約連結貸借対照表

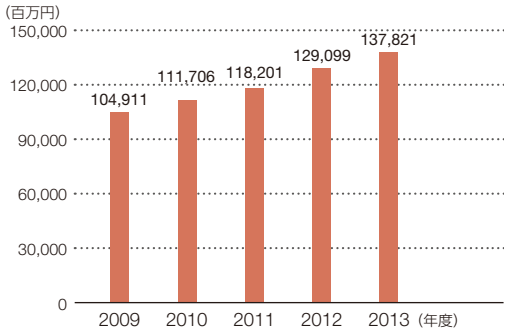
百万円

	2012年度	2013年度	増減額	増減率(%)
流動資産	108,265	121,638	13,373	12.4
固定資産	46,702	47,740	1,037	2.2
資産合計	154,968	169,378	14,410	9.3
流動負債	22,897	28,401	5,503	24.0
固定負債	2,970	3,155	185	6.2
負債合計	25,868	31,557	5,688	22.0
株主資本	126,985	135,273	8,287	6.5
その他の包括利益累計額合計	2,113	2,548	434	20.6
純資産合計	129,099	137,821	8,722	6.8
負債純資産合計	154,968	169,378	14,410	9.3

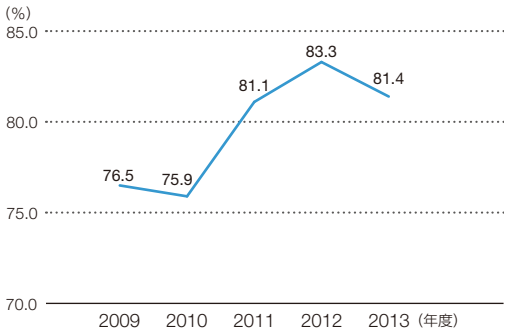
売上原価率



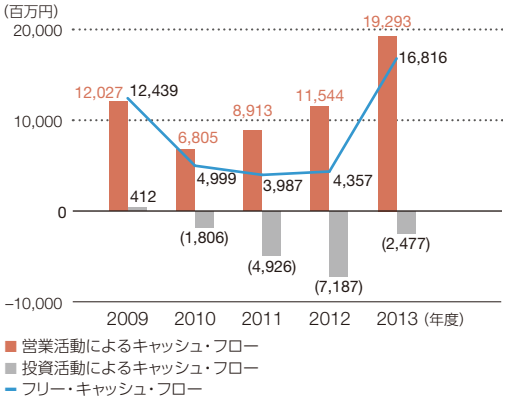
純資産



自己資本比率



営業活動によるキャッシュ・フロー、投資活動によるキャッシュ・フローおよびフリー・キャッシュ・フロー



キャッシュ・フロー

2013年度の営業活動によるキャッシュ・フローは、192億93百万円の収入であり、これは主に税金等調整前当期純利益183億12百万円、減価償却費31億53百万円、仕入債務の増加24億99百万円、売上債権の減少24億45百万円、たな卸資産の増加17億61百万円、法人税等の支払額60億89百万円によるものです。

投資活動によるキャッシュ・フローは、24億77百万円の支出で、これは主に有価証券の取得による支出98億95百万円、有価証券の売却及び償還による収入65億1百万円、有形固定資産の取得による支出26億22百万円、投資有価証券の取得による支出45億9百万円、投資有価証券の売却及び償還による収入78億29百万円によるものです。

財務活動によるキャッシュ・フローは、37億4百万円の支出で、これは主に配当金の支払37億36百万円によるものです。

この結果、当年度末の現金及び現金同等物の期末残高は、前年度末と比較して132億85百万円増加し、358億28百万円となりました。

なお、次年度のキャッシュ・フローの見通しにつきましては次の通りです。投資活動によるキャッシュ・フローでは、新たな研究開発施設の建設や工場設備の拡充等、固定資産取得による支出約60億円を予定しています。財務活動によるキャッシュ・フローでは、主に期末配当として1株当たり42円00銭、中間配当として1株当たり20円00銭を予定しており、合計約46億円の配当金額となる見込みです。

要約連結キャッシュ・フロー計算書

百万円

	2012年度	2013年度	増減額	増減率(%)
営業活動によるキャッシュ・フロー	11,544	19,293	7,749	67.1
投資活動によるキャッシュ・フロー	(7,187)	(2,477)	4,710	65.5
財務活動によるキャッシュ・フロー	(5,132)	(3,704)	1,428	27.8
現金及び現金同等物の期末残高	22,543	35,828	13,285	58.9

2014年度見通し

国内医薬品業界では、2014年4月に薬価基準の改定(業界平均:約3%、消費税の増税分を含む)が実施されたことに加えて、薬剤費の抑制を目的とする諸施策が継続的に実施されており、引き続き厳しい市場環境が予想されます。

このような状況下、当社グループは中期経営計画「HOPE100 −ステージ1−(2010〜2015年度)」の達成に真摯に取り組んでまいります。5年目となる2014年度は、同計画の事業戦略である「ファーマ・コンプレックス・モデルへの取り組み促進」、「ヘルスケア新事業の成長加速化」を積極的に推進し、持続成長とステークホルダーの皆様からの信頼・評価の向上に努めます。

売上面では、新薬事業において2013年度に発売した新製品「フルティフォーム」等の売上増加が見込まれます。また、後発医薬品事業の売上高も拡大が見込まれることから過去最高額の更新を見込んでいます。

利益面では、薬価基準の改定等の影響により売上原価率が上昇するだけでなく、研究開発費(125億円、前年度に対して11億円増)の増加が見込まれることから減益となる見込みです。

2014年度業績見通し

百万円

	2012年度	2013年度	2014年度	増減率(%)
売上高	107,031	111,400	112,200	0.7
営業利益	17,948	17,607	15,800	(10.3)
当期純利益	12,422	12,025	11,300	(6.0)

事業等のリスク

現在、当社グループの経営成績および財務状況等に影響を及ぼす可能性のあるリスクは以下のようなものがあります。当社グループでは、これら事業等のリスクに関し、組織的・体系的に対処することとしておりますが、影響を及ぼすリスクや不確実性はこれらに限定されるものではありません。

1. 当社グループの事業に係わる法的規制

当社グループの事業は、日本国内における薬事法、医療保険制度、薬価制度などの規制および海外における各国の各種関連規制の影響を受けます。また、医薬品の開発、製造、輸入、流通等の各段階において様々な承認・許可制度等が設けられています。今後、予測できない大規模な医療行政の方針転換が行われた場合、当社グループの営業成績、財務状況に影響を及ぼす可能性があります。

2. 医薬品の研究開発に係わる活動

医療用医薬品の開発には、多額の研究開発投資と長い期間が必要な上、新規性の高い化合物を発見し医薬品として上市できる確率は決して高くありません。現在、杏林製薬(株)では、数品目の医療用医薬品の臨床試験を実施中ですが、期待する臨床効果が確認できない場合や予測できない副作用の発現等により研究開発を中止する可能性があります。

3. 他社との競合激化

医薬品業界は、技術革新など進歩が急速に進む環境下にあり、より有用性の高い医薬品の開発や同種の効能を有する医薬品の上市が当社グループの主要製品の売上動向に影響を及ぼす可能性があります。

4. 医療制度改革の影響

日本国内におきましては、医療用医薬品の薬価改定を含む医療制度改革が実施されております。当社グループでは、予測可能な範囲でその影響を業績予想に織り込んでおりますが、予想可能な範囲を超えた薬価改定や医療保険制度の改定が実施された場合、営業成績等に影響を及ぼす可能性があります。

5. 副作用の発現

新医薬品の安全性に関する情報は、限られた被験者を対象に実施した臨床試験から得られたものであり、必ずしも副作用の全てを把握することはできません。市販後、汎用された中でそれまでに報告されなかった未知の副作用によりその医薬品の使用方法が制限されることや、場合によっては発売中止になる可能性があります。

6. 製造の停滞・遅延

技術的・規制上の問題もしくは自然災害・火災などの要因により生産活動の停滞・遅滞もしくは操業停止などが起こった場合、当社の営業成績等に影響を及ぼす可能性があります。

7. 製品回収等

異物の混入等により当社グループの製品に欠陥が認められ製品の回収などの事態が発生した場合、営業成績等に悪影響を及ぼします。

8. 知的財産の保護

当社グループが国内外において知的財産を適切に保護できない場合、第三者が当社の技術を利用して当社グループ製品の市場ないしは関連する市場において悪影響を及ぼす可能性があります。また、当社グループの事業活動が他社製品の特許等、知的財産に抵触した場合、事業の中止・係争の可能性があります。

9. 訴訟リスク

当社グループの事業活動において、特許、製造物責任(PL法)、独占禁止法、環境保全、労務関連などの事柄において訴訟を提起される可能性があります。

10. 為替レートの変動

当社グループは、海外との輸出入を行っており、為替レートの変動は当社の売上高等に影響を与えます。

11. 他社との提携解消

当社グループでは、外部資源の有効活用を目的としてアライアンス戦略を推進し、国内外の製薬企業等と販売委託・共同販売・共同研究等の提携を行っております。今後、何らかの事情によりこれらの提携関係を解消することになった場合、予定している営業成績等に影響を及ぼす可能性があります。

12. ITセキュリティ及び情報管理

当社グループでは、業務上、ITシステムを多数利用していることから、システムの不備やコンピューターウイルス等の外部要因により、業務が阻害される可能性があります。また情報等の外部への流出により信用を失うことで業績に重要な影響を及ぼす可能性があります。

連結貸借対照表

キョーリン製薬ホールディングス株式会社およびその連結子会社
2013年および2014年3月31日現在

百万円

	2012年度	**2013年度**
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	21,370	**31,017**
受取手形及び売掛金	46,555	**44,123**
有価証券	11,667	**17,965**
商品及び製品	11,405	**12,172**
仕掛品	837	**1,048**
原材料及び貯蔵品	7,694	**8,477**
繰延税金資産	2,773	**2,432**
その他	6,013	**4,456**
貸倒引当金	(53)	**(54)**
流動資産合計	108,265	**121,638**
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	30,306	**30,577**
減価償却累計額	(19,790)	**(20,496)**
建物及び構築物(純額)	10,515	**10,081**
機械装置及び運搬具	16,668	**17,991**
減価償却累計額	(13,897)	**(14,850)**
機械装置及び運搬具(純額)	2,770	**3,141**
土地	2,466	**2,449**
リース資産	332	**517**
減価償却累計額	(78)	**(187)**
リース資産(純額)	253	**330**
建設仮勘定	1,071	**3,505**
その他	7,071	**7,668**
減価償却累計額	(5,940)	**(6,336)**
その他(純額)	1,131	**1,332**
有形固定資産合計	18,209	**20,841**
無形固定資産		
のれん	64	**—**
商標権	7	**4**
その他	844	**1,193**
無形固定資産合計	916	**1,198**
投資その他の資産		
投資有価証券	24,552	**23,804**
長期貸付金	19	**4**
退職給付に係る資産	—	**20**
繰延税金資産	1,438	**454**
その他	1,690	**1,539**
貸倒引当金	(123)	**(122)**
投資その他の資産合計	27,577	**25,700**
固定資産合計	46,702	**47,740**
資産合計	154,968	**169,378**

百万円

	2012年度	2013年度
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	8,556	**11,056**
短期借入金	1,523	**1,678**
リース債務	81	**88**
未払法人税等	3,356	**2,361**
賞与引当金	3,327	**3,301**
返品調整引当金	43	**30**
ポイント引当金	45	**39**
その他	5,962	**9,844**
流動負債合計	22,897	**28,401**
固定負債		
長期借入金	251	**242**
リース債務	184	**259**
退職給付引当金	1,938	**—**
役員退職慰労引当金	33	**14**
退職給付に係る負債	—	**2,073**
その他	562	**566**
固定負債合計	2,970	**3,155**
負債合計	25,868	**31,557**
純資産の部		
株主資本		
資本金	700	**700**
資本剰余金	4,752	**4,752**
利益剰余金	121,856	**130,145**
自己株式	(323)	**(325)**
株主資本合計	126,985	**135,273**
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,293	**3,434**
為替換算調整勘定	(180)	**12**
退職給付に係る調整累計額	—	**(898)**
その他の包括利益累計額合計	2,113	**2,548**
純資産合計	129,099	**137,821**
負債純資産合計	154,968	**169,378**

連結損益計算書

キョーリン製薬ホールディングス株式会社およびその連結子会社
2013年および2014年3月31日に終了した年度

百万円

	2012年度	**2013年度**
売上高	107,031	**111,400**
売上原価	40,133	**43,047**
売上総利益	66,897	**68,352**
販売費及び一般管理費	48,949	**50,744**
営業利益	17,948	**17,607**
営業外収益		
受取利息	104	**44**
受取配当金	204	**231**
受取賃貸料	268	**257**
持分法による投資利益	39	**22**
その他	174	**177**
営業外収益合計	790	**732**
営業外費用		
支払利息	38	**11**
為替差損	—	**42**
投資事業組合損失	17	**2**
その他	6	**2**
営業外費用合計	62	**59**
経常利益	18,676	**18,281**
特別利益		
固定資産売却益	0	**172**
投資有価証券売却益	25	**64**
特別利益合計	25	**237**
特別損失		
固定資産除売却損	98	**186**
投資有価証券評価損	—	**18**
特別損失合計	98	**205**
税金等調整前当期純利益	18,603	**18,312**
法人税、住民税及び事業税	5,869	**5,095**
法人税等調整額	312	**1,191**
法人税等合計	6,181	**6,287**
少数株主損益調整前当期純利益	12,422	**12,025**
当期純利益	12,422	**12,025**

連結包括利益計算書

キョーリン製薬ホールディングス株式会社およびその連結子会社
2013年および2014年3月31日に終了した年度

百万円

	2012年度	**2013年度**
少数株主損益調整前当期純利益	12,422	**12,025**
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,738	**1,138**
為替換算調整勘定	87	**192**
持分法適用会社に対する持分相当額	18	**1**
その他の包括利益合計	1,843	**1,333**
包括利益	14,265	**13,358**
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	14,265	**13,358**
少数株主に係る包括利益	—	**—**

連結株主資本等変動計算書

キョーリン製薬ホールディングス株式会社およびその連結子会社
2013年および2014年3月31日に終了した年度

百万円

2012年度	株主資本					その他の包括利益累計額				純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	為替換算調整勘定	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計	
当期首残高	700	4,752	112,797	(318)	117,931	537	(267)	—	269	118,201
当期変動額										
剰余金の配当			(3,362)		(3,362)					(3,362)
当期純利益			12,422		12,422					12,422
自己株式の取得				(4)	(4)					(4)
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)						1,756	87	—	1,843	1,843
当期変動額合計	—	—	9,059	(4)	9,054	1,756	87	—	1,843	10,898
当期末残高	700	4,752	121,856	(323)	126,985	2,293	(180)	—	2,113	129,099

百万円

2013年度	株主資本					その他の包括利益累計額				純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	為替換算調整勘定	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計	
当期首残高	**700**	**4,752**	**121,856**	**(323)**	**126,985**	**2,293**	**(180)**	**—**	**2,113**	**129,099**
当期変動額										
剰余金の配当			**(3,736)**		**(3,736)**					**(3,736)**
当期純利益			**12,025**		**12,025**					**12,025**
自己株式の取得				**(1)**	**(1)**					**(1)**
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)						**1,140**	**192**	**(898)**	**434**	**434**
当期変動額合計	**—**	**—**	**8,289**	**(1)**	**8,287**	**1,140**	**192**	**(898)**	**434**	**8,722**
当期末残高	**700**	**4,752**	**130,145**	**(325)**	**135,273**	**3,434**	**12**	**(898)**	**2,548**	**137,821**

連結キャッシュ・フロー計算書

キョーリン製薬ホールディングス株式会社およびその連結子会社
2013年および2014年3月31日に終了した年度

百万円

	2012年度	**2013年度**
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	18,603	**18,312**
減価償却費	2,738	**3,153**
のれん償却額	128	**64**
貸倒引当金の増加(減少)額	(302)	**0**
賞与引当金の増加(減少)額	211	**(39)**
退職給付引当金の増加(減少)額	(1,010)	**—**
役員退職慰労引当金の増加(減少)額	1	**(19)**
退職給付に係る資産の(増加)減少額	—	**(20)**
退職給付に係る負債の増加(減少)額	—	**134**
持分法による投資損益(利益)	(39)	**(22)**
受取利息及び受取配当金	(308)	**(276)**
支払利息	38	**11**
固定資産除売却損益(利益)	98	**14**
投資有価証券売却損益(利益)	(25)	**(64)**
投資有価証券評価損益(利益)	—	**18**
売上債権の(増加)減少額	(1,480)	**2,445**
たな卸資産の(増加)減少額	800	**(1,761)**
仕入債務の増加(減少)額	(486)	**2,499**
未払消費税等の増加(減少)額	(144)	**9**
その他	(2,956)	**637**
小計	15,865	**25,099**
利息及び配当金の受取額	323	**294**
利息の支払額	(21)	**(11)**
法人税等の支払額	(4,623)	**(6,089)**
営業活動によるキャッシュ・フロー	11,544	**19,293**
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	(1,328)	**(865)**
定期預金の払戻による収入	1,139	**980**
有価証券の取得による支出	(5,995)	**(9,895)**
有価証券の売却及び償還による収入	2,402	**6,501**
有形固定資産の取得による支出	(5,972)	**(2,622)**
有形固定資産の売却による収入	0	**415**
無形固定資産の取得による支出	(344)	**(473)**
投資有価証券の取得による支出	(3,501)	**(4,509)**
投資有価証券の売却及び償還による収入	6,853	**7,829**
その他	(441)	**161**
投資活動によるキャッシュ・フロー	(7,187)	**(2,477)**
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増加(減少)額	(1,675)	**190**
ファイナンス・リース債務の返済による支出	(70)	**(112)**
長期借入れによる収入	360	**300**
長期借入金の返済による支出	(386)	**(343)**
自己株式の純(増加)減少額	(2)	**(1)**
配当金の支払額	(3,357)	**(3,736)**
財務活動によるキャッシュ・フロー	(5,132)	**(3,704)**
現金及び現金同等物に係る換算差額	108	**173**
現金及び現金同等物の増加(減少)額	(667)	**13,285**
現金及び現金同等物の期首残高	23,210	**22,543**
現金及び現金同等物の期末残高	22,543	**35,828**

個別貸借対照表

キョーリン製薬ホールディングス株式会社
2013年および2014年3月31日現在

百万円

	2012年度	2013年度
資産の部		
流動資産	14,938	**17,102**
現金及び預金	10,112	**10,146**
有価証券	—	**3,599**
前払費用	79	**147**
未収還付法人税等	2,584	**1,039**
短期貸付金	2,000	**2,000**
繰延税金資産	138	**154**
その他	22	**15**
貸倒引当金	—	**(0)**
固定資産	84,649	**84,370**
有形固定資産	871	**744**
無形固定資産	512	**761**
投資その他の資産	83,265	**82,865**
資産合計	99,587	**101,473**
負債の部		
流動負債	466	**698**
固定負債	7	**7**
負債合計	474	**706**
純資産の部		
株主資本	99,112	**698**
評価・換算差額等	—	**(0)**
純資産合計	99,112	**100,767**
負債純資産合計	99,587	**101,473**

個別損益計算書

キョーリン製薬ホールディングス株式会社
2013年および2014年3月31日に終了した年度

百万円

	2012年度	2013年度
営業収益	15,654	**8,640**
営業費用	2,476	**3,078**
営業利益	13,178	**5,561**
営業外収益	38	**121**
経常利益	13,216	**5,683**
特別利益	—	**0**
特別損失	185	**151**
税引前当期純利益	13,031	**5,531**
法人税、住民税及び事業税	27	**37**
法人税等調整額	29	**101**
当期純利益	12,973	**5,392**

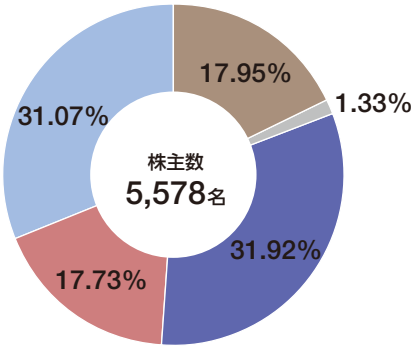
会社概要／株式情報 (2014年3月31日現在)

本社	キョーリン製薬ホールディングス株式会社 〒101-8311　東京都千代田区神田駿河台4-6 電話：03-3525-4700（代表） URL：http://www.kyorin-gr.co.jp/
設立	昭和33年（1958年）
資本金	7億円
発行済株式総数	74,947,628株
株主数	5,578名
上場取引所	東京証券取引所
株主名簿管理人	みずほ信託銀行株式会社 〒103-0028　東京都中央区八重洲1-2-1 電話：03-3278-8111

大株主

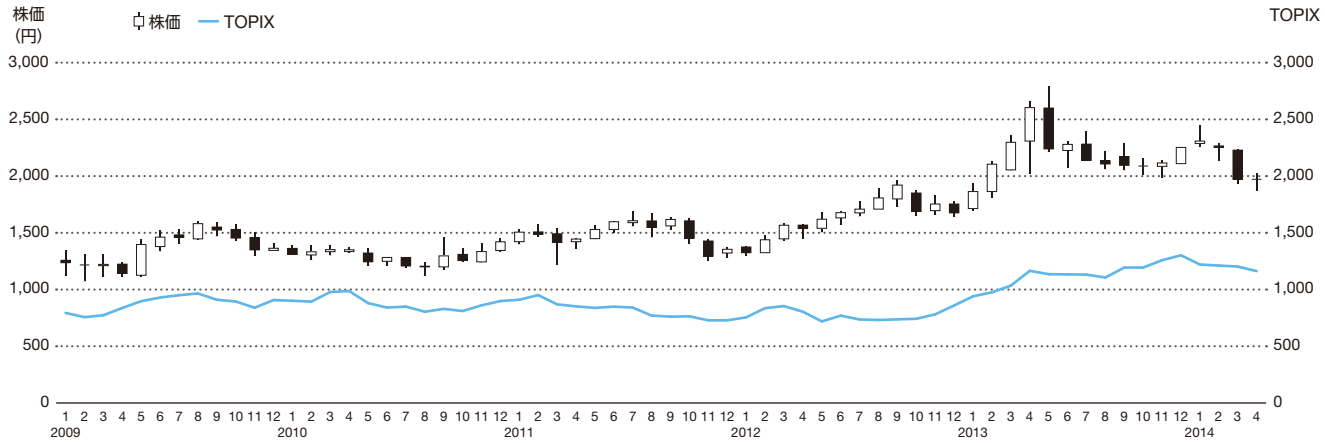
	持株比率
帝人株式会社	10.13%
株式会社アプリコット	6.00%
株式会社マイカム	3.66%
日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	3.65%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口）	3.22%
荻原　弘子	3.00%
荻原　年	2.97%
株式会社バンリーナ	2.60%
株式会社アーチャンズ	2.60%
荻原　豊	2.48%

所有者別株式分布状況



金融機関	17.95%
金融商品取引業者	1.33%
その他の法人	31.92%
外国法人等	17.73%
個人・その他	31.07%

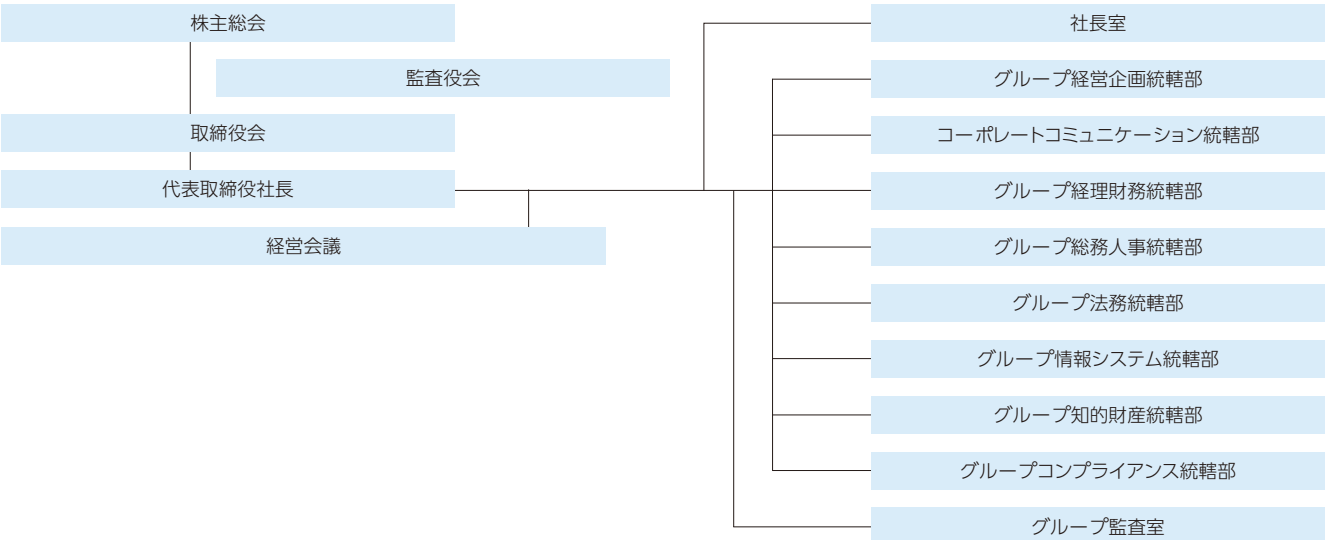
株価の推移



IRサイトのご案内　http://www.kyorin-gr.co.jp/ir/

当社では、株主や投資家の皆様にタイムリーに情報提供することを目的として、IRサイトの充実にも注力しております。決算情報、ニュースリリース、投資家向け説明会資料やアニュアルレポートなどの情報を当社IRサイトに適宜公開しております。

キョーリン製薬ホールディングス(株)組織図 (2014年6月24日現在)



主な子会社・関連会社

連結子会社

杏林製薬株式会社
資本金　43億17百万円(出資比率100%)
本社　〒101-8311
東京都千代田区神田駿河台4-6
事業内容　医薬品の製造販売

キョーリン メディカルサプライ株式会社
資本金　4億88百万円(出資比率100%)
本社　〒160-0023
東京都新宿区西新宿6-25-13
キョーリン西新宿ビル
事業内容　販売促進・広告の企画、制作など

キョーリン リメディオ株式会社
資本金　12億円(出資比率100%)
本社　〒920-0017
石川県金沢市諸江町下丁287-1
事業内容　医薬品の製造販売

ドクタープログラム株式会社
資本金　2億51百万円(出資比率100%)
本社　〒160-0023
東京都新宿区西新宿6-25-13
キョーリン西新宿ビル
事業内容　スキンケア商品の開発と販売

キョーリン製薬グループ工場株式会社
資本金　4億50百万円(出資比率100%)
本社　〒528-0061
滋賀県甲賀市水口町笹が丘1-4
事業内容　医薬品等の製造、販売など

杏林製薬株式会社子会社

Kyorin USA, Inc.
資本金　50万US$(出資比率100%)
本社　500 Frank W. Burr Boulevard, Teaneck, New Jersey 07666, U.S.A
事業内容　他社技術などの調査・分析、臨床試験に関する情報収集

Kyorin Europe GmbH
資本金　5万€(出資比率100%)
本社　Kaiserstrasse 8, 60311 Frankfurt am Main, Germany
事業内容　他社技術などの調査・分析、臨床試験に関する情報収集

ActivX Biosciences, Inc.
資本金　1US$(出資比率100%)
本社　11025 N. Torrey Pines Rd., La Jolla, CA 92037, U.S.A
事業内容　医薬品の候補化合物の探索研究と化合物の評価

持分法適用関連会社

日本理化学薬品株式会社
資本金　4億11百万円(出資比率29.2%)
本社　〒103-0023
東京都中央区日本橋本町4-2-2
事業内容　医薬品・試薬・中間薬品などの製造販売

見通しに関する注意事項

このアニュアルレポートに記載されている、キョーリン製薬ホールディングス(株)の見通し、計画、戦略およびその他の歴史的事実に当たらないものは、将来の業績に関する見通しであり、これらは現実入手可能な情報に基づいて、当社が現時点で合理的であると判断したものです。したがって、実際の業績は、様々な要因により見通しとは大きく異なる結果となる可能性があることをご了承願います。実際の業績に影響を与えうる重要な要因には、当社の事業を取り巻く経済情勢、社会的動向、競争圧力、法律および規制、製品の開発状況の変化、為替の変動などがあります。なお、業績に影響を与えうる重要な要因は、これらに限定されるものではありません。

KYORIN Holdings, Inc.

〒101-8311
東京都千代田区神田駿河台4-6
キョーリン製薬ホールディングス株式会社
コーポレートコミュニケーション統轄部　IR課
TEL　03-3525-4707
FAX　03-3525-4777
URL　http://www.kyorin-gr.co.jp/

ミックス
責任ある木質資源を使用した紙
FSC® C004803

VEGETABLE OIL INK

Waterless Printing, Naturally.

本アニュアルレポートは、植物性インキを使用しています。

Printed in Japan